

平成28年2月10日(2)

開議 10時00分

**○議長 磯永優二君**

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は、13名であります。

これより、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問1日目をおこないます。

順次、質問を許可します。初めに豊明会の質問の一般質問をおこないます。

最初に、平田精一議員。

**○2番 平田精一君**

おはようございます。豊明会トップで質問させていただきます、平田です。どうぞよろしく申し上げます。

質問内容は、一応3点、観光問題について、上水道問題について、4年間の未解決問題についての3点について質問させていただきます。

それでは、まず、最初に1点目の観光問題です。旧中津街道について、お伺いしたいと思います。御存知のように、中津街道は、小倉城下から中津城下を結ぶ九州の主要道路だったと思いますが、豊前市においてもその当時の建築物が残っていると聞きました。

そこで、最初に私が気が付いたのが、空き家バンクの問題でクレームだったんですね。話をよく聞いてみると、空き家バンクによって売買が成立して、いざ家を建てようと思ったら、ちょっとストップがかかりましたということです。

その調査をやっているのが建築士会ということですね。実際に調査してみると、かなり古いもので、小今井潤治さんの貴重なものが残っていたりとか、建築物の構造も大変貴重なものだということです。

そこでお伺いしたいのですが、建築士会が調査すること、豊前市はどこまで御存知だったのかということをお聞きたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 向野隆裕君**

おはようございます。お答えいたします。

建物の調査につきまして、空き家バンクで購入されたということで、その方が崩されるということがございまして、それにつきまして、建築士会の中で、その周辺の建物調査を始めたということを知った所有者の近隣の方が、建築士会のほうに、そういう近々壊されるということで、そういう調査をされているということを建築士会が調査されているということを知りましたので、一度、調査をされてみたらどうですか、というお話を聞いて、建築士会のほうが調査に行くと聞いております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

その後ですね、その調査に当たって、豊前市の対応として、建築士会が主体になっているんでしょうけれども、その建物を残すつもりがあるのかないのか。そのところをお聞きします。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 向野隆裕君**

松江から三毛門に至る中津街道ですが、歴史的に文化遺産に対するものが多くあります。その中でも標柱、道標ともに古い建物がございまして、歴史的に価値が高いというふうに思われているものも残っております。

現在、先ほど議員さんが言われましたように、建築士会等が古い町並みを歩く街道めぐりなどをおこないまして、町並みに対する文化的な価値や認知度等が高まってきているというところがございます。

ただ歴史的価値が高い建物が、街道にどこにどの程度存在するのかというところで、現在、全体的な調査を進めているところがございます。その調査結果によりまして、保存について今後どうしていくかということは、検討していきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

そこでですね、打ち合わせの中で言われたのが、いま世界遺産ということがたくさんありますけど、日本としても日本遺産みたいなことを考えている、ということを知りました。そこで登録すれば、日本遺産として認定されれば、ある程度の価値が出てくるということだったんですけど、そのところはいかがですか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 向野隆裕君**

日本遺産の認定に先だちまして、まず歴史の文化基本構想というものの策定が必要になってきます。これにつきましては、平成28年度から取り組めるように、いま国のほうに要請しているところがございます。

この基本構想を策定して認められますと、単体の指定というところだけでなく、そういったエリアについて、全体的に包括したようなかたちで指定等が受けられて、保全等ができていくというかたちになりますので、そういったこともひとつの建物保存の方策では

ないかと思っておりますので、そういった取り組みをしていきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

例えばですね、この近辺でも豊後高田市のように、昭和のまち、それと大分県の日田市で言えば豆田町とかいう、いわゆるそういう歴史を利用した観光事業をたくさんやっている所があると思います。かなり成功しているし、いままで手を付けていなかった場所に手を付けることによって、観光産業がひとつ一翼を担うのではないかと思いますけど、その点、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

おはようございます。お答えいたします。いま現在ですね、まだ中津街道沿い、文化財指定とか古い家が開放しているとかいう所がございませんので、これからの話だと考えております。これから先、調査が進み、またそういう協力していただける家、また文化財の指定とかいうことがございましたら、観光ルートのひとつとして考えられるかなと考えております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

昔の茶屋だったらいいんですね、いわゆる建築物が。建築士会の人とちょっと話たんですけれども、十分観光資源としてやっていけるということで、中には改築費用がかなり掛かるとは言っていました。

築上町あたりも蔵内邸という素晴らしい観光地ができました。あそこはすごい金額で買っているわけですが、こういう小さい家だったら金額的にも安いだろうし、ただ改造費がかなり掛かるということで、そこが大きな問題ではないかなとは思いますが、だから単体で考えると、1軒だけで十分観光資源になるんでしょうけど、1軒だけで集客能力があるのかというのは、ちょっと疑問なところがあると思います。

そこで、今度4月からオープンされる海業支援施設、今度名前が決まったみたいですけど、うみてらす豊前ですね。宇島駅から歩いて散策して十分な距離だと思います。その間を散策道として整備することによって、確かに豊前はグリーンツーリズムですか、山を散策するのは整備をされました。ただ街中を歩く整備が全くされていないような気がします。ただ車で来て、うみてらす豊前に行って食事して、ああ良かったね、で帰るのではなく、実際に歩くことによって、いろんな方向、場所が見えると思います。

実際に、僕らも今度は選挙運動で歩きます。まちを歩くことによって見えない所がたくさん見えてくると思います。この宇島だけじゃなく、松江にも確かあると思うんですよね、そういう古い家が。それを一遍にしようとする中々難しいと思いますけど、そういう考えはないんでしょうか。市長、どうですか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

私たちの先人が築いた歴史遺産というのは、確かに言われるとおり、まちを歩けば、ある意味ではあちこちに点在しています。中々普段の生活では気付かない所を建築士会の皆さん、そしてまた西日本工業大学の先生方、学生さんも含めて、私も中津街道だけでも歩かせていただきました。辻々にその跡が残っていたり、道路のかたちがまだ色濃く残っていたり。先般、図書館で、街道を歩く、また街道を紹介する写真展がございました。その写真の中に古地図が含まれておりまして、その古地図といまの現状をあわせて、当時のままに、もしくはそれに少し手を加えたくらいで残っている姿が点在しています。

我々はいま言われるように、観光という面から、そこにどんな価値があるのか、どんなドラマがあるのか、そういうことを知ることが価値であり楽しみである。それがお客さんを引っ張って来る、また関心を持ってもらう大きな要因だろうと思います。

いま海業施設、うみてらす豊前が間もなく開業しようと、オープンしようとしております。それに併せて、その点だけではなく、それを線に、また面に伸ばしていくためには、もっと魅力的なところを合わせ業で持つというのが滞在時間をもっと長くしていただける、もしくは泊まってもう1日楽しもうかと、そういう滞在型の観光につなげていけるんじゃないかと思います。それを縦横斜めに価値をつなぎ合わせる、これが我々の仕事でもあろうかと思います。

そういう意味では、どういう価値があるのか、歴史遺産として、どんな魅力があるのか、そのところを第三者の目で建築士会の皆さんも西工大の皆さんもボランティアでやっていただいております。そのボランティアの力を借りるだけではないんですが、借りながら、豊前市としてもしっかり取り組んでいきたいと思っています。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

この問題を聞いたときに、まず一番に思ったのが、どうしても縦社会で動いているのかなど。豊前市の行政だけじゃなく、観光問題にしても、いろんな問題にしても、商工会議所があったり農協があったり、いわゆる行政があったり。そしてこういう問題があったときに、建築士会という、また会がある。独自でいろんなことをやっていたらいいんで

すけど、横の連絡がないばかりに、さっきありましたクレーム問題が起きてくるわけですよ。

それぞれが知らないから勝手に空き家が売れたから、ああ良かったな、じゃなくて、やはりどんな意味を含めても豊前市のいろんな団体としっかり横の連絡を取らないから、こういう問題が起きてくるのかなと思います。いまはもう行政の中は、段々縦社会をなくしていこうということであるんでしょうけれど、今後ですね、そういういろんな団体との連絡網を築き上げなければならないと思います。

そこで、副市長、どうでしょうか。いわゆるプロジェクトチームあたりをつくって、観光問題に力を入れているわけですから、今後もそういう横の連絡網をどういうふうに構築していくのか、お聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

皆さん、おはようございます。いま平田議員の御指摘の件でございますけども、議員が言われるように、いままでは非常に横連絡がずいぶん悪かったんじゃないか、建築士会の皆さんが、いろんな施設を見て回ったり、いろんなことをしていただいておりますけども、それで終わってしまっているというような気がします。

4月以降は、そういった方々といろんなデータの交換をし合い、やはり豊前市の観光資源をどのようにつくっていくのか、その古い町並みについては、現在の所有者の方がいらっしゃいますから、そういった方々を交えて取り組みをしていく必要があると思います。

特に宇島地域は、今回、うみてらす豊前ですか、そういった施設を建設中でございます。その施設を有効に活用し、多くのお客さんに豊前市に訪れていただくためには、そういったまちづくりが絶対に必要です。内部でよく協議をし、皆さんと協議をしながら良いまちづくりのために頑張っていきたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

ぜひ頑張っていたきたいと思います。

続きまして、上下水道料金について、お伺いしたいと思います。これは確か市民の方から言われたんですね。豊前市は保育料3人目無料、中学3年生まで一定の金額の800円を払えば医療費の補助があり、非常に助かっているということは聞きます。

実際に保育園に行っているお子さんたちの父兄から聞くと、非常によくやっています、ということは聞くんですけど、その中で、やはり豊前市の上下水道代が県下の中でも非常に高いんじゃないか、ということをおっしゃいました。それを何とかしてくれない

だろうかということです。

実際に上下水道課から資料をいただきましたけど、県下でもやっぱりトップクラスなんですね。築上町が一番高い、豊前市も7番目ということです。その点、水道代について、どういう見解を持たれているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

皆さん、おはようございます。ただいまの料金の件でございますが、確かに県下ではやはり7番ということで高いほうになっております。ただ、京築管内におきましての状況ということで、御説明させていただきたいと思います。

料金につきましては、2市5町京築管内での高い順に発表したいと思いますが、豊前市の標準的な二人世帯の使用水量でございますが、これが12リ्यूベになっております。まず水道料金では、京築管内では1950円から2810円まで分かれております。豊前市は、4番目の2500円でございます。

下水道料金につきましては、下水道がない上毛町を除き、京築管内1810円から4104円まで分かれます。豊前市は5番目の1850円でございます。

上下水道合計料金につきましては、京築管内3940円から6914円まで分かれ、豊前市は3番目の4350円でございます。以上でございます。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

確かに京築の中では低いんですけど、やっぱり福岡県下を見ると高いということですね。そして次に伊良原ダムが完成します。完成すれば責任水量が必ず増えてくるわけですけど、市民の皆さんに聞いてみると、またダムが出来れば責任水量が出てくるので、また水道代が上がるのではないかという、ものすごい心配をしている方がいらっしゃると思います。その点、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

確かに伊良原ダムが完成いたしますと、責任水量が6400トンになります。これはいまよりも2600トン増えることにはなりますが、水道料金の値上げについては、現時点では一切考えておりません。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

もう1つの資料から見ると、さっき課長のほうから先に説明していただいたのが、二人世帯ですね。二人で生活している所の家の金額を言われたんだけど、結局は子育て世代ですね。豊前市がいま少子高齢化、若者がここに住んでもらって、ここで子育てしてもらって豊前市の人口を何とか維持しようという意向があるわけなんですけど、いわゆる子育て世代が一番負担量が多いんですね。月に9千なんぼ、1万円くらい掛かるとか、だからそういった人たちの補助なり、何らかの手当てができないのかなと思うんですよね。

子どもをたくさん産めば産むほど上下水道料金、光熱費が上がってくるわけなんで、電気代は別にしても、水道代だけでも少しは補助ができないのかなと思うんですが、その点、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

いまの御質問でございますが、使用水量が増えれば、ということでございますので、方法とすれば、以前から使えば使うほど安くなることを考慮という言葉が出ておりますので、逡減制ということも伊良原の状況に応じまして、可能ではないかとは思いますが、以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

ぜひですね大家族化、核家族じゃなくて、若い人たちが豊前で子育てをして、子どもを2人、3人、平均1.8と言われてはいますが、やはり3人、4人産んでいただいても楽に生活することができるようにするためにも、そういった点も考えていただきたいと思えます。

続きまして、前回の議会でし尿を下水道に接続することによって、水道の使用料が増えるということで、それをつなぐことによって水道代の値下げができるのではないかと思いますけれども、どれくらいの効果があるのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

公共下水道が行っているところが水道区域でございますので、下水道を推進すれば、それに併せて水道のほうの効果が出ると確信しております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

その点を、ちょっと市長にお伺いしたいと思います。他の市町村も、たぶん下水道に流せば水道代をいただけるんだと思います。いま1市2町が入っていますけど、その地域のし尿も処理するわけですから、例えば豊前の水をたくさん使うということですね、大変な効果があると思いますけれども、その点はいかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

し尿処理をどうにかたちでし尿処理していくのか、その方法の1つに豊前市の上下水道施設に直結することによって、一括して処理することによる効率化と経済性というのを図れる、という可能性はあると思います。

そのときに必要な下水道ですとかなり薄い、いろんな水が入ってまいりますので、非常に薄い水になります。それをし尿だけのかかなり濃いものを直接投入しますと、処理のほうで、機械が非常に難しい運転になるということで、10倍ほど希釈しなければならない、その希釈水のことだろうと思います。

その希釈水を、ちょうど平成30年から伊良原ダムの水が1日に6400トン、豊前市で責任を持って受け取らなければならないという責任水量もございます。増えてくるわけでございます。そういう水を使ったらどうかという案があります。これについても、いま慎重に検討しているところでございますし、1市2町でまた周辺の他の自治体も含めて、どのように枠組みをし、そして処理のかたちをすれば地域全体が納得していただけるのか、そして後世にツケを残さないかたちで処理ができるのか、いま研究しているところでございます。

具体的なことは、まだ数字として、ここでお話しするところまでは至っておりません。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

そうですね、どんどんどんどん責任水量ばかり増えて、使用量が増えなければ、どんどん負担になってくると思います。実際にいまでも水が余っているというか、責任水量を完全に使っているわけじゃないんで、その点は今後しっかりやらないと、市の負担がどんどんどんどん増えるばかりではないかと思っていますので、しっかりやっていただきたいと思います。

いまの上下水道の問題で、最後に今回の寒波で断水という問題が起きました。この問題は、ちょっと同僚の黒江議員のほうからいろんな問題が言われると思いますけど、ちょっと1点だけ質問させていただきたいと思います。

テレビなんかで観ていると、普通に生活している人は漏水が起きれば、すぐに気づいた



んでしょうけど、いわゆる空き家ですね。どこの空き家で水が漏っているか分からない。バルブがどこにあるか分からない、という事態がたくさん起きたみたいなんですよ。

豊前市の今回で、市の職員の皆さんは、夜遅くまで頑張っていたいただいて、できる限り早急に処理できたんだと思うんですけど、空き家で何件くらいの漏水があったのか、教えていただきたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

今回の漏水箇所で、職員が回りまして、直接停止させていただいた分が240件ありましたが、そのうち空き家が28件にのぼっております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

28件、なんとか止めていただいたということですね。今後も空き家がどんどん増えてくる、中山間地域については、結局上水道が来ていませんからいいんですけど、やはり上水道の通っている地域の空き家対策について、やはりバルブの位置あたりはしっかり確認していなければならないと思います。

空き家になったときにバルブを閉めるような方法とか、今後どういう対応をしていくつもりなんでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

空き家につきましては、バルブが、メーターボックス自体が、実際に職員の報告ですと、草に埋もれて全く見つからないということがございますので、その部分については、今後精査し対策を考えてまいります。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

必ず、今後こういう寒波、何十年に一遍と言っていましたけど、結構寒いことが今後また来る恐れがありますので、しっかり空き家対策のときに上水道のバルブは、しっかり確認だけはしておいていただきたいと思います。

続きまして、4年間で解決できなかったことを、2点ほどお伺いします。

私が当選させてもらってもう丸々4年になります。その中で、まず初年度から問題だったんですけど、養鶏場の問題ですね。現在、火災で操業がストップして、臭いの問題は解

決されていますが、いま現在も残留鶏糞は解消されているわけではないと思います。

この前、私どもの議会報告会の中で、南部地区から、そういう問題が提起されましたけど、この3月までには何とか方向性を示すということと言われていましたけれども、一般企業のことですから、中々口を挟めないところがあるというのは十分分かっていますけど、市としての対応は、言える範囲でいいですから、どういう対応をしていくのか教えていただきたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

おはようございます。いま平田議員さんがおっしゃられたとおり、中々進んでいないという状況でございます。会社の経営自体も中々厳しいということで、保険とかその辺も中々思うようになっていないというのが現状でございます。

現在、豊前市とそれから担当課、それから県と、月1回の訪問、調査をおこなっているんですけども、中々残留鶏糞も減っていない。一部は中津・上毛、それから今年度からは、豊前の農家さんにもちよつと御紹介して、肥料になっている分を持って行ってほしいということをお願いしております。何回か見に来てくださったりもしていますので、若干は減ったんですけどもほとんどが残っている状態です。

先ほどおっしゃられたように、ハエとかあと臭いの問題は、毎月チェックしております。雨水に当たるとというのが一番悪いので、その辺をチェックさせていただいております。8月の台風もありましたので、一部シートがめくれたりとか、いろいろありました。その分は市の職員が行きまして、テントの補修等をおこなっております。

今後の件なんですけれども、月1回訪問するに当たって、ここの鶏糞も含めて土地を使用するのに何か良い方法はないかと、企業として独自に何もできないのであれば、どちらかに貸すとか、そういうことができないかという提案をさせていただいているところでございますが、先ほど議員さんも言われましたように、企業側の経営のほうもありますので、全てこちら側がということにはならないんですけれども、そういう助言をいまやっているという状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

平田議員の質問中でありますが、電源のトラブルのため、ここで暫時休憩いたします。

休憩 10時31分

再開 11時03分

**○議長 磯永優二君**

電源のトラブルで、傍聴者の皆様方には、非常に御迷惑をお掛けいたしました。

それでは、休憩前に引き続き、ただいまより会議を開きます。

平田議員。

**○2番 平田精一君**

養鶏場の問題を質問途中で電源トラブルがありましたので、再度というわけではないんですが、努力されているのは分かるんですが、御存知のように、膨大な面積の土地があります。建物も段々老朽化してくるでしょうし、早急に片づけないと、また違う意味での公害が出てくる可能性があると思います。

やはり広範囲の土地なので、真剣に、一企業でしょうけれど、考えていっていただきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

2点目です、防災無線についてお伺いします。もう防災無線が設置されてから約3年ちょいになると思います。これは、たぶん東日本大震災でテレビに出たように、凄い映像で放送される映像が映りました。そのために防災無線が全国に設備されたんですけど、市民の皆さんもすごい期待を持っていたんだと思います。

ただ、実際に設置して使用してみると、聞こえにくいとか、家の中では全く聞こえないとかうるさいとか、いろんな苦情が来ていると思います。どこに行っても言われるので、今後、防災無線、もちろんこの防災無線というのは最低限の防災設備だと思います。だけでもそれ以上の設備が必要になってきているのではないかと考えていますので、その点はいかがでしょう。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

防災無線について、お答えをさせていただきます。この防災無線でございますが、設置して3年目を迎えているところでございますが、構造上、屋外に設置したこのスピーカーにつきましては、住宅の屋内環境、また天候等によって、いま議員さんから御指摘をいただいたように、聞こえない、聞こえにくい、言葉が認識しにくいという状況が発生していることについては、これまでに様々な御意見をいただいております、市としても大変苦慮している状況でございます。

市としても、この状況については、戸別受信機の配布など、方策をいろいろと現在考えているところでございますが、そういうものが今後必要であろうという認識をしているところでございます。

現在のこの防災無線につきましても、3・11以降、国のほうが防災上必要ということで、屋外拡声器とJアラートをつなぐ最低限必要な設備ということで全国に普及を呼び掛けている状況でございます、豊前市も3年前に、そういうことで最低限の設備ということで設置をしたところでございます。

現在、それにさらに戸別受信機等については、現在当市が導入したデジタル防災行政無

線を最大限に活用できる仕組みの中で、どのような方式がベストなのかということで、現在4方式に絞り込みをおこなって、検討を進めているところでございます。12月議会でも、そういうかたちで御説明をさせているところでございます。

最も有力な方法の1つとして、V-Lowマルチメディア放送というのがありますが、この放送は、アナログテレビ終了後に空いた周波数を利用して創設された新たな放送サービスでございまして、デジタル放送の特色を生かして、特定地域の戸別受信機にだけ放送を受信させる機能がありまして、これにより防災無線の戸別受信機と同様の運用が可能というふうにされています。

現在、株式会社、FM東京を中心に、全国でその普及を図っているところでございますが、とりわけ九州・沖縄広域圏ブロックについては、全国に先駆けまして、今年の3月1日より福岡県から順次放送が開始されるということで、近くでは北九州市にこの電波塔が設置をされるという状況でございます。将来的には、日本全国でテレビ・ラジオのように受信できるということでございます。

このような状況を踏まえまして、豊前市での受信状況など具体的な課題を、これから整理していきたいというふうに考えております。またランニングコスト等も含めて必要な経費を算出しまして、他の方式と比較検討して進めることといたしております。

最終的には、庁内に検討委員会を設置して、そこで最終的な御判断をいただいて進めていきたいと考えておりますので、いましばらくお時間をいただきたいというふうに考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

#### ○議長 磯永優二君

平田議員。

#### ○2番 平田精一君

ぜひですね、もちろんお金が掛かることなんで、早急というのは中々難しいんだと思いますが、一番困るのが弱者の方だと思います。高齢者世帯の二人暮らしで、外に出たら聞こえたのに、中々家の中からすぐには出られない方たちが一番困っているんじゃないかと思いますので、市長、最後の答弁で、一言お願いします。

#### ○議長 磯永優二君

市長、答弁。

#### ○市長 後藤元秀君

防災面での対応というのが、我々行政にとっても、地域社会にとっても大事な要素でございまして。そういう意味では、一番弱い立場の方々、高齢の皆さんを含めた弱い立場の方々が安心して暮らせるというのが一番理想的な社会でございまして。それを支える、いざというときのために、どなたがどこでも、屋外であろうと屋内であろうと、命にかかわる情報が的確に、送る側からすれば伝達できるのか、受ける側からすれば入手できるのか、この

体制を整えるというのは、非常に大事なことでございます。

いま課長が申しあげましたように、技術的にはかなり進んでいるところがございます。戸別受信機というかたちで、屋内で情報が入手できるようにという、これは目指さなければならぬ方法だと思います。

ただ、どのくらいの負担が掛かるのか、まさにランニングコストという言葉を使いましたが、維持をしていくのに、どのくらい経費が掛かるのか、後世の皆さんに大きな負担が掛からないような望ましい姿を、そしてまた国のほうで、こういうシステムについても助成、補助という対象になるようでございますので、しっかり検討して頑張っていきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

これで質問を終わります。ありがとうございました。

**○議長 磯永優二君**

平田精一議員の質問が終わりました。

次に、黒江哲文議員。

**○1番 黒江哲文君**

それでは、皆さん、おはようございます。豊明会の二番手、市民目線がモットーの黒江哲文が一般質問をおこないたいと思っております。

本日の質問は、市民対応業務についての1点であります。内訳は、1つ目が安心・安全対策について、2つ目が市民の声について。3つ目が市民サービスと予算についての3点であります。執行部に対しては、端的な答弁を御期待いたします。

早速、1つ目の安心・安全の対策について。いま全国的に事件・事故・災害等、毎日のように新聞等で報道されております。豊前市でも、いつ何が起こるか分からない。豊前市民がいかに安心・安全で暮らせるか、このようなことが重要ではないかというふうに思います。そこで、1つ目、安心・安全対策を、災害と防犯という順に質問をしていきたいと思っております。

まず、災害対策の質問をいたします。豊前市でも思いもよらない災害があったわけがあります。大雪の際、水道管の破裂であります。市の職員は、私も駆けつけましたが、とても頑張っておりました。復旧の対応も早かったのではないかとこのように思います。

市民の声としても、水の大切さを痛感したというような声も聞きました。やはり市民から行政に対して、お礼の言葉、苦情の言葉等、たくさんあったのではないかとこのように思います。

しかし、今回の教訓を今後に生かすためにも、問題を検証することが重要だと思います。

そこで、私の気になる点を数点お尋ねします。

1つ目ですが、庁内での情報ツール、職員の情報網は、どのようになっているのか。情報を知らない職員もいたようであります。そして私も、市民からその緊迫した状況というのを聞きました。議会としていち早く情報を知り、出来るべき対応をしていきたいと思うわけでありますけど、議会への情報発信を強化していただきたいと思います。

この庁内での情報ツール、メールなど、予算が掛からずできることもあるかと思えます。ぜひその辺をするべきではないかということと、強化をしていただきたいということに対して、答弁をお願いします。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

今回の寒波によります災害につきましては、いろいろ学ぶべきところがずいぶんありました。従来と違って、これだけの宅内漏水が発生いたしまして、それについての市民への情報供給、または庁内の統一等も様々な部分で苦情電話も受けまして、今回いろいろ参考になったところがございます。

このようなことが今後ないように、スムーズにできるように、経験をいたしまして、関係機関と協議を深め、早急に市民の方々の安心・安全を担保できるマニュアルづくりの作成に努める所存でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

議会と市民の情報ツールなんで、総務課に答えていただきかったところではありますが、後ほどお尋ねしたいと思います。

2点目、次に市民との情報の共有はどうだったのかということでもあります。いま現在、豊前市と市民の情報ツールというものは、どのようなことの手組みがありますか、お答えください。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。現在、市民との情報ツールということでございますが、こういう緊急の場合につきましては、防災行政無線で、まず放送をしているところでございます。

また、市の広報車が現在、6台ございますので、今回もそれをフル活動して市民の皆さんに状況等をお知らせしたところでございます。さらにホームページがございますので、今回の市の給水の場所とか、あと状況についてはホームページ等に掲載していた状況でござ

ざいます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

いま市の、市民との情報のツールということをお話してもらったかと思います。あとフェイスブック等も内容を報告されているのかなというふうに思いますけど、やはりフェイスブックにしてみたら、やっぱり賛否いろいろあるかと思うので、直接やり取りは難しいかと思いますが、この災害のとき、行政本部と市民の情報の共有というものが、とても重要だということを私も今回痛感いたしました。

実際、豊前市での、この災害の時の現状はどうだったのかということでもありますけど、問題はいま課長も言われておりました、防災無線が聞こえない、そして車で走っている放送も、やはり内容が聞きづらいわけでもあります。

先ほどの平田議員の質問の中でも、答弁で、4つの方法、そして整理をしていくというようなことがあったわけではありますが、いまある現状の中で最善の方法、それをどのようにやっているのかということでもあります。その聞き取りにくいとき、その方法としては、電話で確認をするのか、防災無線の確認ですね、そしてホームページで確認をするのか、もしくは市役所に連絡するのかなというふうなことがあるかと思います。

理想の手順はどのようなのかということをお尋ねしたいのと、また今回の件について、市民の実際の動きがどうだったのかということをお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。今回ですね、私ども26日10時に最初の臨時の所属長連絡会議を開きまして、この時点で寒波凍結による水道の断水に対応するため、上下水道課を支援するために対策本部に準じて全庁的な対応に切り替えたところでございます。

それまでは水道課の個別の対応というかたちであったんですが、その時点でそういうかたちに切り替えております。特に電話対応、漏水対策、給水対策等について、各課から応援職員を派遣し対応に当たったところです。

特に水道課には電話が数多く掛かってきましたので、まずそれに対応するため、職員の増員をおこなったというところでございます。そのあと、必要に応じて昼・夜と、臨時の所属長連絡会議を開きまして、それぞれ所属長会議の内容を各課に伝えて、それぞれの所管課の凍結に対する影響等を把握させて、それを持ち寄って、さらにどういう対応をするかを、この臨時の所属長調整会議で諮って、対応を進めていったというところでございます。

その中で、必要に応じて、いま言ったように広報車の活動、防災無線、ホームページ等の指示も一緒に出していったところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

私の質問しているのは、理想の手順はどうかということでもあります。

市長も先ほど答弁で言われておりました。災害は命にかかわる問題ということでもあります。重要な中で、いろんな設備をしていく中では、経費等もあるから、ということでもありますけど、単純にいまの現状の時に災害が起きたときに、放送が聞こえなかったら電話をするのか、それともホームページを確認してくださいと言うのか、もしくは問題があったときには市役所に電話してくださいと言うのか、この手順の理想はどうなんですかということでもあります。その辺を協議しているのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

今回ですね、私どもまず、最初に現在起こっている状況について、防災無線で放送を投げかけたところでございます。そのあと、市民の皆さんから、聞こえない、また内容について再度確認、状況等について、ありましたので、その中で、それぞれ対応していったということになりますので、まず私どもから防災無線、一番伝えやすい、一斉に伝えやすい手段としては、防災無線での放送をとったところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

答弁を聞いておきますと、やはり具体的な手順というのが決まっていないような感じがいたします。

前回も質問いたしましたけど、放送が聞こえなかったとき、やはり市民の方に防災無線のフリーダイヤル、確認をするのがあるということでもありますけど、前回、その電話を聞き取る際に、市民が一斉に電話した場合、回線に限度があるという話でありました。この辺についての改善策は、どのようにお考えですか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

改善策ですが、回線数に限界があるということで、現在、対応等を考えておりますが、中々経費等の問題もあって、前向きにいておりませんが、今回、引き続き3年目を迎え



ておりますので、全体的に課題等を含めて、総合的な見直しもしていかないといけないんじゃないかと考えているところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

それでは、ホームページ、防災無線の電話確認というふうにあるわけでありますが、この辺について、防災無線の内容とホームページの内容というのにつきましても、タイムラグはないのでしょうか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。できるだけ防災無線で流したあとにはホームページの更新をやるように、同時にやっておりますけれども、若干のタイムラグ等も状況によっては起こっている状況でございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひですね、今後災害が起きた際は、やはり防災無線が聞こえなかったら電話かホームページ等、いろんな対応で市民も混乱するかと思いますので、その辺の手順をしてもらいたいというふうに思います。

もう1点ですね、この電話を聞き取る際の確認なんですけど、電話の案内ですね、当時間も10数件、13件から16件くらい入っておりました。案内を、次の放送を聞きたい場合は1を、そして同じ放送を聞きたい場合は2を、そして前の放送を聞きたい場合は3を、というふうにあるわけでありまして。これはもう混乱していたときに、次の放送というのは、どの次なのかということと、前の放送というのは、一番前なのか一個前なのか、そのような同じ放送と流れた場合は、次と同じというのは、どういう意味なのかというのが、ちょっと10何件入っていたら、混乱するんですね。

実際、そのままボタンを押さないで待っていたら、放送が流れるわけなんですよね。というふうになったら、混乱したときに、ちょっと前置きが長すぎるんじゃないかというふうに思います。この辺のもう少し分かりやすく調整ができるのか。その辺の市民の声等があったのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。具体的に市民から直接私どものほうには届いておりませんが、確かにいま言った、これは基本的には番号で選択式のやり方をごさいますして、時と状況によっては、まどろっこしいというか、そういう状況も放送回数が多ければ起こってしまうという状況もごさいますので、これについては、少しメーカーのほうと協議して、もう少し改善できないかどうかは、今後検討していきたいというふうに考えております。

今回、24時間で放送が消えるんですが、24時間以内に10何件という放送が流れた関係で、非常に分かりにくかったという状況が、議員さんが指摘されたように起こっておりますので、やはり本当の場合はそういうことが問題になろうかと思っておりますので、ぜひ改善を進めていきたいと思っております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひとも分かりやすくお願いしたいと思っております。

次の災害についての3点目ということで、問題箇所の方の今後の対策ということであります。気になったのは、水を使う業者への対応であります。例えば飲食店、美容院、病院その他あるかと思っておりますけど、災害は仕方ない部分もあるかと思っております。正しい情報をしっかりとそういう業者に伝えることが重要かというふうに思っております。

例えば、飲食店では、放送で、20時から断水、市内の水が全て止まるというふうに勘違いをし、各飲食店同士で情報を流したり、水を溜めたり閉店の準備をしたりとかいうような声も聞いておりました。かといって、八屋、宇島、赤熊地区は大丈夫だという情報もあったり、それを職員に尋ねると、聞く職員、職員で、言う内容が違うということもありました。そこにつきましては、焦っていた現状でありますので、仕方ない部分もあるかと思っておりますけど、結果は水が出たので良かったかなというふうに思っております。

このような水を使う事業所に対して、情報をしっかりと伝える対策、今後の課題等は協議がおこなわれたのか、それともどのように考えているのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

この件につきましては、課内でもしております。ただ今回みたいなかたちになりますと、一部という言葉を使ったために、全くその一部の意味が分からないとかいうのがございまして、今後はっきりエリア等も答えられるようにする。どのようにするかというのは、いま検討しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひその辺も次の課題に入れていただきたいというふうに思います。

水を使う事業所ということで、最も問題だったのは病院の透析であります。この透析患者が10数人、20人から30人ですか、おられたというふうに聞いております。これは本当に命にかかわる問題であります、この問題について、どのように対処したのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

この件につきましては、病院へお伺いし、状況等を見ましたところ、直結の水道でございましたので、受水槽を用意していただくということで、検討していただくということで対応したところでございます。

またおっしゃるとおりに、よその病院に搬送する予定でございましたが、最後の日のときには、一応お伺いしたときには、もう業者さんと呼んで見積もりの準備をしている状態で行きました。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

行かれたということですが、また今後のタンクの取り付け、打ち合わせ等、またしていただけたらというふうに、協議をしっかりとっていただきたいというふうに思います。

今回、この配管の破裂で、水道工事の業者さんもかなりの御尽力をいただいたことかというふうに思います。本当に業者さんにつきましては感謝をしたいと思うところですが、この業者さんとの支援提携等は結ばれておるんですか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

上下水道課長、答弁。

**○上下水道課長 谷内英仁君**

管工事組合とは、修繕当番制を含めまして、契約をいたしております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

今回のような災害が起きると、やはり水道業者だけでは手が追いつかない部分があるかと思えます。

話を聞きますと、中には大工さんであったり土木の業者さんであったり、いろんな方が

お手伝いしたとも聞いております。今度は水道管ということでありましたけど、災害に備えて、そういう協定などを結んだらいいんじゃないか、というふうなところが提案であります。

私は、今回の災害を通じ、行政本部と市民の情報の共有というのが大変重要だというふうに感じたわけでありまして。豊前市も何があるか分からないし、早急に対応して、それに向けた訓練をしていかないと、混乱を招きかねないというふうなことを痛感いたしました。

先ほど質問の中にも防災無線には莫大な費用が掛かっている。そしてその費用の中で、実際、戸別受信機をもっと設置するべきではないかというふうに思う部分もあるわけでありまして、先ほど、何点か質問しました。内容等がしっかり協議されて、戸別受信機でありましても、例えば家にいない人は聞こえないとか、そういったところの、いろんな対応があらうかと思っております。

このような1つひとつの具体的なことを協議をしながらやっていかないと、この情報ツールというのがしっかりできないんじゃないかというふうに思います。これが私の以上、感じたところでありまして、この情報ツール強化について、市長、一言お願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

今回の大雪、それに伴う凍結、断水。水道の水の大切さを、まさに天をもって思い知らされた、そんな災害でございました。

今回、いま議論になっております、どのように災害が起きたときに対応していくのか、そのときに本当に情報、そしてネットワークの、また市役所としてどう動けばいいのか、市民と連携してどうすればいいのかという、大変多くのことを学ばせていただきました。市役所の職員も26日には25時という、深夜1時まで民間企業の皆さんが次の日に困らないようにということも含めて対応しました。しっかり頑張ったと思っております。

また、当然のことと言えれば当然でございますが、業界の皆さん、水道関係の皆さんには、本当に夜を徹して寒い中、頑張ってくださいました。本当に心から感謝しているところでございます。

ただですね、これは起きて、どう対応するのかという、その問題と、今回の問題は、もう1つ大きな問題が落ちていると思っております。市役所として、議会終了直後にも、この問題の反省の会を開かなければと思っておるわけでありまして、当初から今回の寒波はすごいで、そして必ず水道管が破裂するので破裂しないように対応してください、という情報は流しておりました。ホームページというかインターネットの中でもありました。このことをきちっと事前対応として伝える、この努力が市役所として足りなかったのが一番大きな原因ではないかと思っております。

空き家で水道管が破裂して水漏れという、これは致し方ないところの事故として対応しなければならない部分があるかもしれません。ただ今回は、数十年振りの寒波が襲ってくるぞという予測がありました。このことで、事前準備は、ペーパーも、ある意味ではインターネットの中にできておりました。このことをしっかり事前に伝達するという、このことが少し欠けていたのではないか。そうすれば、何軒かでも対応できたのではないか。

そのときに、その情報を知っても対応できない高齢者の皆さん、自分だけではもう対応しきれない方々、その人たちをどう対応して対策を立ててあげられるのか、その辺のことも含めて、これから反省材料として、しっかりと検証していかなければならないと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひですね、いま市長も言われておりましたけれども、何はともかく職員の皆さんも全力で頑張ったということにはかわりないわけであります。今後とも、市長もいま今後の課題ということで言われておりましたけれども、この災害対策、今後に生かせるようにしていただきたいと思っております。大変御苦労さまでありました。

次の安心・安全対策についての中で、防犯対策について、数点お尋ねします。

私は、過去の一般質問の中でも、豊前市は日本一の安心・安全なまちづくりを目指すべきではないかというふうに訴えたわけであります。行政では、その後、どのようなことをしたのか、市民意識への重要課題ではないかというふうに思います。

子どもへの防犯対策、高齢者への安心・安全対策。豊前市での取り組みは、その後どのように考えておられますか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。まず総務課から地域の登下校、見守りや青色防犯パトロールについて、回答したいと思います。

現在、八屋、大村、宇島、千束の4地区におきましては、PTAや区長会等により見守り隊が組織化され、定期的に見守り活動を実施しております。また、この他の地域でも交通安全指導員や個人の方がボランティアで登下校時に見守り活動をされていらっしゃる。

その他、パトロール活動といたしまして、三毛門駅を中心に、三毛門区長会が定期的の実施しており、さらに青色防犯パトロールにつきましては、豊前市が所有、維持管理をしております青色防犯パトロール専用車両を、自動車販売店協会で構成する、ちいきみまも

ろうたい、に車両貸与して、本車両と会員が個人で所有をしております13車両を使用し、ボランティアで市内の巡回パトロールをしているという状況でございます。

また市では本年度2回、登下校の見守り状況について、警察や関係団体等を交えて、意見交換会を実施いたしております。組織化されていない地域がございますので、そういう地域につきましては、地域の実情も違います、ボランティアという側面もございますが、活動の輪が市内全域に広がるよう、現在推進しているところでございます。

今後も関係団体と協力体制の強化を図って、防犯啓発活動を推進し、地域の防犯意識の向上と安全確保に努めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

## ○議長 磯永優二君

黒江議員。

## ○1番 黒江哲文君

会議の中で、どのようなことが問題視されて、どのようなことが改善のテーマなのかということを知りたいところではありますが、その辺について、今回、質問の中で提案ができればということも含めて、質問を続けていきたいと思っております。

実際、いろんな豊前市の中でも事件や事故が発生したわけではありますが、民間でもPTA等、子どもたちが安全で安心して過ごせるよう、何かしたいと思っている声や、団体等も実際にあるかと思っております。実際に動いている団体もあろうかと思っております。

いま担当課長のほうから、この通学路の見守り隊、そして防犯パトロールという話もありました。このいま豊前市内に安心・安全に携わるボランティア団体がどれくらいあるのかということではありますが、それにつきましては資料をいただいております。愛のネットワーク、そして民生委員、そして高齢者見守り隊など、様々な組織、これは人数に換算しますと500以上あるわけでもあります。またPTAやその他の団体を入れると、まだかなりの人数がおられるかというふうに思います。

実際それを総括的にやるというのが重要かというふうに思いますけど、いまの豊前市では、実際、災害は総務課、子どもは教育課、学校を出れば学童で福祉課、そして高齢者は福祉課、またその中でも包括支援センター、社協、民生委員などに分かれているかというふうに思います。実際、またそこから各部署、様々な団体が付属しているのかなというふうに思います。

しかし、それぞれのボランティア団体を、民間団体、公的団体を一括で取りまとめていくというのは、大変現実的に困難かというふうに感じる部分もあります。そこで、2つ、私から提案があります。

1つは、豊前市全体、また各団体との情報を共有できるシステムの導入が必要ではないかということでもあります。3段階の方法で、庁内で協議したものが庁内に流れていく、そ

してそれから各団体の長なのか、各団体に流れていって、市民全体へという段階でありますけど、やり方は、いろいろ方法はあるかと思えますけど、市民全体で共有する仕組み、システムの強化、この捉え方をどのように考えておられますか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。まず、総務課といたしましては、この防犯、交通安全関係を所管しておりますので、こういうかたちで、現在、これは一昨年になりますけれど、そういう活動をされている方を、代表者の皆さんにお集まりいただきまして、また警察や防犯協会、シルバー人材センター、区長会の役員さん、あと市役所の所管課の皆さんが集まって、1回意見交換会をしております。

その中で、やはり市役所の中でも、それぞれの所管課の連携が連携不足だというような意見がございました。またそういう不審者情報が末端のボランティアの皆さんまで伝わっていない、というような状況もございましたので、そういうものを、まずそういう会の中で、どう機能させるかというような意見交換をやったところでございます。そういうものをまず整備していこうと。

それともう1点は、ボランティアをされる方につきましては、豊前市では、その窓口として、社会福祉協議会の中にボランティアセンターというものがございまして、そこに個人なり団体なり登録できるシステムがございます。そういうところをまず紹介して、その中で、いろいろな活動、情報、またその中にはボランティア保険とか助成、活動資金など、そういうメニューもあるようでございます。

そういうところを今後幅広く、市民の皆さんにも情報を提供して、加入促進していき活動を活発にさせていただく、そういう取り組みを関係課と一緒にしていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひですね、その情報網、これを作ることによって、安心・安全対策がかなりできるんじゃないかというふうに思います。

提案の2つ目でありますけど、いま市P連でも一部の方が声を挙げておられますが、ドライブレコーダーの取り付けの推進であります。ドライブレコーダーを各車に設置していただき、ドライブレコーダー着用のステッカーを貼るといふ、それだけでもまちを挙げてすれば、防犯対策にかなりなるのではないかというふうに思います。

設定によっては、エンジンを切っても充電器があれば20時間録画されるというような

機能もあるようであります。そしたら、駐車をしていても20時間くらい録画ができるということです。何か事件があれば、その映像を見ながら確認ができるということで、この辺は、まちを挙げて取り付け台数を増やすことが、効果があるのではないかという、この2点の提案ということであります。

これはPTAの声だけにとどめず、市全体の情報ツール、先ほど言った市内の情報ツールとドライブレコーダーによる防犯対策ということによって、行政が先頭に立って取り組むべきではないかというふうに思いますが、一言、市長にお願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

安心・安全な地域をつくるというのは、本当に我々にとって最大、最善の課題だと思います。おっしゃるように、多くの目が行き届くということが大事でございます。行政サービスが安全・安心体制を築くための行政サービスが時代の変化とともに多様化し、複雑になっていく。バラバラに見えるようなかたちになっております。

実は、行政サービス面での安心・安全体制だけではなくて、市民の多くの目が、そういうふうに安心・安全に寄与するという、力を貸していただくという体制をとるとするのは、非常に大きな力になると思います。

そういう意味では、ドライブレコーダーというのは、市役所も検討しているところでございますが、去年は、民間企業の方から市の車に付けてほしいということで寄贈も受けました。防犯カメラが犯罪に対して抑止力にもなるし、いざ事件が起きたときの検証にもつながっていくという意味では、動く防犯カメラでございますドライブレコーダーの場合は、もっともっと多くの方々が、これを付けて、市の車も付けてというのは、本当にこれから検討していかなければならない課題だと認識しているところでございます。

ぜひですね、守られる方だけではなくて、守る方々も増やしていく、その人たちをボランティアというかたちで、何かきちっと言われるように、御指摘いただいたような組織化みたいのところまで含めて考えていかなければならない、そういうふうに認識しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひともですね、この2点の提案と災害を含めて、総合的な連絡網等をしっかりしていただきたいというふうなところで、1点目の質問を終わりたいと思います。

そしてですね、最後に執行部にちょっと提案でありますけど、この情報網ということを通じて、議会と執行部との連携というものが大変重要ではないかというふうに思います。



また議会と市民の間でも、政治離れが進んでいる深刻な現状の時代ということでもあります。

地方議員と市民がコミュニケーションを図るために目的としたウェブシステムの導入ということが、全国の自治体でも進められております。住民本位政治情報システムですか、議会から市民に情報発信をするなど、またペーパーレス議会システム、タブレットなどを通じて行政と議会との連携、経費の削減等にもつながるわけでありまして、福岡県では嘉麻市という所が取り組んでいるわけでありまして。

このようなシステムの導入等を、しっかり考えていただけたらというふうに思いますけど、その辺一言、お願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

御指摘の御提案いただきましたウェブシステムにつきましては、まだ我々も情報をしっかり掴んでおりません。嘉麻市のなどの話を聞きながら、研究していきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひとも、その資料のほうもありますので、お渡ししたいというふうに思います。

議長、どうでしょうか、次の質問になりますか。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員の一般質問の途中ではございますが、事前にお知らせしておりましたように、きょうは12時から最後の撮影をするようになっておりますので、ここで暫時休憩をいたしたいと思います。暫時休憩します。

休憩 11時50分

再開 13時07分

**○議長 磯永優二君**

皆さん、こんにちは。休憩前に引き続き、豊明会、黒江哲文議員の一般質問を続けます。

それでは、黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

それでは、午前中、安心・安全の対策についてをいたしましたか、引き続き、2番目、市民の声についてを質問いたします。

市民の声として不安に感じているのが人口減少時代、そしてまた豊前市の財政問題をはじめ、東九州自動車道開通も間近、豊前市も地方創生、海の駅をはじめ観光協会の立ち上げ、プロジェクトチームの設立と取り組んでいますが、具体的に雇用、定住、交流人口の

獲得と、本当につながるのだろうかというような心配であります。

このような声をもとに、定住促進と交流人口の2点について、確認と提案をしたいと思  
います。

まずは、定住促進についてお尋ねします。現在、豊前市の定住促進事業の取り組み、実  
績、今後の見込みをお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

現在の定住への取り組みでございますけれども、1つに定住促進事業ということで、青  
豊地区の分譲地に対する助成事業、それとあと新婚家庭の家賃助成事業等を実施している  
ところでございます。

実績としましては、青豊地区の住宅につきましては、あと2区画までの販売ができてお  
ります。それから新婚家庭の家賃助成につきましては、年間30件程度を目標に募集して  
おりますけれども、ほぼ目標を満たすかたちの御利用をいただいているところでございま  
す。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

いま2点、事業を挙げていただきましたが、実際は定住促進の事業につきましては、幅  
広くあるのではないかというふうに思います。

実績の中で、今後の見通し、どの事業が良いで、どの事業の成果が出ていないのか、分  
析はどのようにされていますか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

新婚家庭の家賃助成につきましては、現在、一番最初に申請をいただきました方々が3  
年間の助成期間を終えて、その後、市内にいらっしゃるのか、または市外に転出になった  
のかということ、追跡調査をしている最中でございます。

これにつきましては、また、まとめました上で御報告申し上げたいと思います。よろし  
くお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

いま新婚家庭の、ということで話がありましたけど、この補助事業も、実際、大変人気

があるということであります。現在の補助額は幾らくらいおこなっていますか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

ちょっと資料を確認しますので、お時間をいただけないでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

26年度は800万円台ということで、27年度1100万円台ということかと思えますけれども、実際、私は800万円台がマックスかと思いましたが、この1000万円、この部分については、これがマックスなんでしょうか。それとも今の事業の中で、どんどん膨らんでいく予定ですか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

27年度がそういう数字が出てこようかと思えますので、その辺がマックスというふうを考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

これだけの予算を投入しているわけでありますが、事業は良いかと思えますけど、これだけの多額な金額が定住とどれだけつながっているかということが重要かというふうに思います。

その実績は、先ほど今たどっていつているということでしたが、どのようにお考えかお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

まだ最終的に数字の集計ができておりませんが、現在まで調べている範囲では、市内にとどまっている方が大半だという数字が出ております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

この辺が定住につながる部分で、いまからということでありますが、この辺がちょっと

計画的に問題があるんじゃないかというふうに思います。

新婚の仮住まいの方に補助を出しているわけでありますが、実際に住む家がなければ、市外に流出していくわけであります。受け皿がなければ、この補助金自体も死に金になるんじゃないかというふうに考えるところであります。

この新婚家庭のこの補助金、定住につなげる政策としてするためには、アパート暮らしから一軒家に、豊前市に住みますよというような確定が、ある程度取れる見込みがあるところに補助を出すという考え方はいかがですか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

確かに議員おっしゃるような見通しをもった事業の展開ということも必要であろうかと思えますけれども、こういう助成事業をする中で、利用者の方に、そういう意識付けができるような、また取り組みができればというふうに思いますので、その辺また今後検討していきたいというふうに思います。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

その辺の計画が豊前市でどうなのかというところを今から質問していきたいというふうに思うところであります。

また近隣では豊後高田市も市民のニーズに合わせた新婚さん応援住宅、子育て応援住宅、空き家活用住宅、田舎暮らし体験など、力を入れているわけであります。各自治体でも様々な定住に向けた住環境の整備という取り組みを、力を入れているかと思えます。

生活する上での様々なニーズに合った住宅環境整備ということが、豊前市にとっても重要ではないかと思えますけど、その実際、豊前市での、その住環境の整備の取り組みがどのようにおこなわれているのかということをお尋ねしたいと思います。

実際に住環境整備、現在どのような事業でありますか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

現在ですね、総合計画の中でも、そういう住環境の提供という部分がかかれておりますので、それに従いまして、宅地の販売でありますとか、そうしたところ、それから当然、空き家バンクの事業の展開につきましては、そうしたアパート等からの住み替え等についても御紹介しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

市民の生活のニーズに合った捉え方というのが、市内でどのような考えでおこなわれているかということが大変気になる場所でもあります。実際、豊前市の現状の中で気づいた点を数点お尋ねしたいと思います。

市営の上町団地ですね。実際に上町団地の中に予備スペースの駐車場がないということでもあります。お客さんが来ても止めるスペースが全くないというような声を聞くわけですが、その現状をお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

現在ですね、上町団地につきましては、外来者用の駐車場は取ってございません。というのは、外来者用の駐車場に有料駐車場を借りている方以外の方が止められるような状況になっております。有料駐車場を借りてお金を払っている方と、公平性が保てないということで、今の時点では設置をしておりません。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

公平性が保てないということではありますが、団地にお住まいの方が、例えば行事ごと、法事とかお正月とか、お客さんをお呼んだりする場ですね、止める場所がないということでもあります。そのような対策については、どのようにお考えですか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

現在、上町南団地については、取り壊した空き地がございます。その分については、そういう使用の目的があるのであれば、市のほうに御連絡いただければ、使用承認等をして使っていただくというふうなことになるかと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

空き地のほうを、言っていただければということではありますが、柵をしていて分からないと思うんですね。それは実際、そのような活用というのは、声が挙がったり、また逆に行政のほうから、そういう場合は、こういうふうにして使ってくださいとかいう周知は、どのようにされていますか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

団地内だけでなく、保育園等で入学式等があった場合に、使用の申し込みがあって、その分については使用許可を出して使用していただいている、というような状況でございます。

また団地の中については、広報等をおこなっておりませんで、今後ですね、区長さんあたりを入れて検討していきたいというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

大体お客さんが来たときに駐車で止めるとかですね、実際に止めたら悪い所に止めていたから、実際、今回ポールをしたかというふうに思います。ポールをすることによって、またさらに車を止める場所がないので、路上駐車をしていくわけですよね。やはり事情は分かるんですけど、路上駐車、その辺の現状とか、どのようになっていますか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

路上駐車につきましては、上町南団地のみならず、他の団地でも苦情が入っております。

本来、外来駐車場の整備については、当課としても必要ではないかというふうに考えておりましたが、平成8年から14年にかけて、本町団地に外来駐車場を6台用意したところでございます。その6台について、入居者の方がつくっている自治会の中で、維持管理をしていただいていたところでございますが、中々維持管理ができなくなる、また入居者がそこに無断で止めるということで、非常に有料駐車場を借りている方から、公平性に欠けるということで苦情をいただき、24年に外来駐車場を全て有料駐車場に整備した経緯がございます。

現在ですね、有料駐車場が整備されているのが、新町団地一団地のみになっております。新町団地については、自治会、区で厳格に管理しておりまして、いま時点で無断駐車等がないような状況になっております。

当課としても、お盆や年末等にかけて、入居者の方から外来駐車場を求める声がございます。有料駐車場と契約者と公平性が欠けないような、そういう事態が起きないようなことになれば、自治会管理人、入居者等の御協力をいただけるのであれば、今後、外来駐車場を整備することも可能ではないかというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

他の所は、そういうふうに対処した部分があると。この上町団地の部分の話をしているんですが、上町団地につきましては、スペースがなければ、またそのような意味も分かるんですけど、広い空き地があるわけですね。あの辺を開放するという考えはないんでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

その分を開放いたしますと、中々当課として維持管理ができなくなる。また有料駐車場を借りていただいている方にも非常に不公平感が感じられると思いますので、いまの時点で、その造成地を駐車場というようなことは考えておりません。

緊急の場合は、当然、使用願い等を出していただいで使っていただくことは別段構わないというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

言っている理屈はよく分かるわけでありますが、私の伝えたい趣旨は、やはりそれが市営であるのに市民のニーズに実際合っているのか、考えているのか、というところが疑問点であります。そういうところも対応をするべきじゃないかなというふうに思うところがあります。

次の質問は、豊前市の取り組んでいる住宅環境整備について、三楽の住宅の現状は、契約状態はどうか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

それではお答えいたします。いま、昨年から15区画販売しておりますが、3区画販売をいたしております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

15件中3区画ということですね。やはりこの辺につきましても、中々条件が悪い中で、価格がそこそこ高いのではないかと。

地元の方の声としては、離合できないような場所に住宅を造って、何を考えているのか

というような声も挙がっているわけでありまして。過去の質問でも指摘をいたしました。道の問題、その進捗状況をお尋ねしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

道路の関係でございますが、現在、建設会社の横を通る道路については、一部、三差路の所が非常に通りにくいという部分で要望をいただいております、28年度に用地買収をおこないまして、工事をする予定にしております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

その二葉建設の近くの通りですよ。あそこが離合できないという状態です。これが病院から学童の横、あそこから突き抜けると、結構通りが良くなるんじゃないかというふうに思いますけど、交渉、その考え方、どのような考えか、お聞かせください。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

現在ですね、離合できない、ちょっと狭い道路と言われている道路について、非常に路面等も側溝も老朽化しております、そちらのほうを優先する必要があると思います。

また、いま議員がおっしゃる道路については、それがあれば非常に区画された三楽の団地のほうには行きやすくなると思っておりますが、地元のほうから、そういう要望が出ておりません、既設の住宅の間を通っている道路については、利用者が非常に多いような状況でございますので、当課といたしましては、まずそちらを優先していきたいというふうに考えてございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

その辺が実際計画していくのに、私は順序が逆じゃないかなというふうに思うんですよ。道のほうとか、そういうのを計画して、実際に、その計画のほうはまちづくり課が計画した、というふうに聞いているわけでありまして、管理は、分譲したら財務課が管理をしていく、いま道の話は建設課がしていく、というようなかたちになっているわけでありまして。

実際その計画自体は、庁内の中でそれがストップされたんですか、それとも住環境の整備として、まちづくり課等で、まだ継続してその環境整備には取り組んでいるんですか、



お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

その道路については、今のところ、地元のほうからの要望が挙がってきてございません。

どちらを優先するかという話になるとは思いますが、限られた予算の中で、少しでも地元の要望に応じていくということになれば、現状、利用されている道路を当課としては優先していきたいというふうに考えています。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ちょっと質問を理解してもらえていないようですが、住宅環境整備をするために、市のほうがそういう計画をしていくんですよね。私は計画をする中で、ニーズに合う道の確保とかした上で住宅確保とか考えていくべきだろうけど、今回は、分譲して、もう財務に渡ってるわけですよね。しかし、今の立地が悪い条件とかいうのは、やはり継続してまちづくり課が計画をやっぱり実行していかないと、それは道の問題は建設課となっているんですけど、この辺が問題があるんじゃないですかと。

その協議はまちづくり課のほうで、まだ継続して進めているのか。それとももう譲ったから、財務とあと道は建設課ですよというかたちなんですか。

**○議長 磯永優二君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

お答えします。三楽住宅に関しましては、県との協議の経緯がございまして、区画整理の関係で、もともとあの場所に県営住宅が建っておりました。それを県から引き受ける協定書がございまして、引き受けて分譲するというような流れになっております。

議員さんが言われました最短コースを通るような道筋でございしますが、あそこが市道ではなくて、あそこの開発した住宅の共有地になっておりましたので、当時といたしましては、現道の市道の拡幅を優先ということで考えたところでございます。

いま現在、まちづくり課では、財務課のほうに移管しまして、継続道路については建設課のほうに引き継いだところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ひとつの行政の住環境整備ということの考えのテーマで質問しているわけではありますが、

ちょっと角度を変えた質問をしたいと思います。

この住環境整備について、各自治体では、民間と連携して等、というような取り組みがあるわけであります。現在ですね、豊前市も小今井公園に分譲地が民間で準備されているわけですね。そしたらそこについて、立地については駅も近い、そしてコンビニも近い、学校、商店街も近いということであります。

やはりあれだけの住宅を確保するのであれば、市外の方をいかに呼び込むかとか、そういう流れを住環境の中では必要なことではないかというふうに思うわけであります。その辺についての、行政では何か連携等はやられていますか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

まずインフラの関係で、当課から答えさせていただきます。

教校地区の開発につきましては、まず業者さんのほうから道路関係について、当課のほうに協議、これは都市計画法に基づく32条協議というのがございます。その中で、市のほうの希望をお伝えして、その後の道路については、市のほうが帰属するということになりますので、うちのほうが引き受けるというようなかたちになります。

その前面道路につきましては、学校が近くにございましたので、歩道付きの道路改良を現在市のほうでやっております。本年度で完了予定というふうに協議等を、開発業者といたしまして、連携しているところでございます。

また上水・下水についても、業者と話して、連携してやっているというような状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

いまの現状について、ちょっと住環境の整備というテーマと、中々話が噛み合わないんで、ちょっと質問しづらいんですけど、私はこの定住促進の事業ということで、働く環境や住まいの整備ということで、数件、地元の企業回りもしてきたわけでありますが、やっぱり企業の中でも市外に家を建てる方が多い、というような声も聞くわけであります。それをいかに取り込んでいけるかというような、定住に向けての政策が必要かというふうに思うわけであります。

いまの話を、ちょっと聞いていまして、実際、企業誘致をしたとしても、いかに定住に持ち込んでいけるかということは、やはりそういうような視野を持たないと、現実的には難しいんじゃないかなというふうに思います。やはり今ある企業といかに連携して、豊前市で働く人のニーズに応えた環境整備をしていくかということを取り組むことが重要か

というふうに思います。

やはり行政仕事というふうになりますと、中々高くついたり、また民業圧迫というような問題もあるかと思えます。民間の出資企業者へ、市内の不動産、建築業者などと連携して、市内で潤うような住環境整備というものをやっていくべきではないかというところを伝えたいわけであります。最後に、市長、一言お願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

いまテーマになっております定住促進というのは、我々にとっても本当に喫緊の課題でございます。目の前の課題です。

ただ、民有地の場合ですね、どのように我々が連携していけばいいのか、売る方側から取り組むと、ちょっとある意味での民業偏りだとか、圧迫につながる可能性があるかもしれません。ただ、利用する、買おうとする人たちに、地域を理解していただくという、そういう促進の仕方というのものもあるかもしれません。

ここに一生の人生最大の買い物である家を買って、そこに住んで子育てをしようと、終の棲家を、というような人生設計を立てた場合に、じゃあ子育てするには安心してできる医療関係、それから子育て支援策、買い物の利便性があるのかどうか、教育はどのようなか、安全・安心である、素晴らしい環境に恵まれている、プラスそういうところが大きくかかわってくるんだろうと思います。そういうトータルの住環境整備という意味では、もう市を挙げて取り組むべきところだろうと思います。

ただ、いまおっしゃっている、あそこは良い所だから、ここに市外の人を呼び込んで、そして、ということになると、まさに企業の部分とどのようにかかわればいいのか、その辺もぜひ研究していかなければならぬのじゃないかなと思います。いずれにしましても、素晴らしい立地条件というのは、限られた所にあります。間違いなくそれを生かしていくことが魅力づくりにつながるだろうと思います。

そういう意味では、ぜひそういうところを多面的に、その企業の人たちに知らせるといえるか、そういう意味での接点は、積極的にこちらから求めていくべきではないか、そしてまたその人たちの声を聞きながら、足りないところをどのように補えばいいのか、そういう対策を立てていくのが定住促進、住環境整備につながるのではないかと思います。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

いま市長の答弁につきまして、企業とどのように連携していくかというところでありまして、やはり先ほど言ったように、定住促進の事業で1000万円の予算を使っている、

それを定住にもっていくかというふうになると、どうしても企業との連携というもの、例えば企業から市外にいる方に、いかに豊前市に住んでもらう提案をするか。でも住む場所がないと受け皿がないわけでありますよね。

やはり例え話で言いますと、いま建設課長のところに六郎の道を付けてもらいたいというような要望もきているわけであります。やはりこれから農業も厳しくなっていく、そして道を付けてもらえれば、住宅地として十分に活用できるし、住む立地であると思う、というような要望があるわけですね。

これが建設課だけで考えてしますと、道だけ、市の予算、というふうになるわけでありますが、そこにどれだけ住宅を建てて、横には公園もあります。そして企業も近いわけでありますから、アパートを建てたり、どのような計画をしたら、そこに受け入れができるのかという、同じ道が2千万円から3千万円掛かったとしても、そのような計画を付けて、定住にもっていけば、それも生きた道になるのではないかと。そのようなことを計画していただきたいというところでありますので、お伝えしておきたいというふうに思います。

次の市民の声の2点目、交流人口についてを質問いたします。

市民の声では、豊前市に観光地として、市外、県外から高速に乗って本当に来るのだろうか。経済効果として、どこまでつながるのだろうかという不安の声であります。

もちろん、豊前市には、求菩提山、歴史や文化、水産加工施設と、やっているわけでありますが、どれも素晴らしいかと思えます。しかし、何かひとつ寄せるところを、主となるものをつくって、市外から呼び寄せ、それから市内の各施設に足を運ばせるような政策が必要ではないかというふうに思います。

交流人口を獲得するにつきましては、いまある資源を予算の関係もありますので、いかに最大限に使って、市外、県外から足を運んでいただけるかという大胆な計画が必要かというふうに思います。

そこで、私の提案は、日本の都市公園100選にも選ばれております、天地山公園をリニューアルしてはどうかということでもあります。まずは現状を確認したいと思いますが、実際の利用者数、目標者数というのは、どのようにお考えですか、お尋ねします。

#### ○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

#### ○まちづくり課長 大谷隆司君

お答えいたします。天地山公園、平成26年度で言いますと、5万1747名の入場者があったところがございます。現状といたしましては、土・日、祭日は、市外の方のお客さんも結構来ているというような状況でございます。

また多目的グラウンドが設置されておりますので、いろんなサッカー、ソフトボール、

そういう大会があるときは、市外からかなりの人数が豊前市のほうに来ていただいているような状況でございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

実際にいま天地山に対して、市民がどのように捉えているかという声を、ちょっとお伝えしたいと思います。

まず厳しい縛りということで、看板に書かれているのが、1つ目がゴルフクラブ、ローラースケート、スケートボード、キックボード等を持ち込まないこと、ということであります。2つ目が草スキー用具等を持ち込まないこと。3つ目、自転車、一輪車、子どもの三輪車等を持ち込まないこと。4つ目がガスコンロ、火器等を持ち込まないこと。そして5つ目が、犬・猫等のペット、動物等を連れて入場はできません、ということであります。

市民の声では、こんな立派な公園があるのに、これは宝の持ち腐れじゃないかと。これじゃ来るなど書いているのか、というような声もあるわけであります。

今回、目安箱にも書かれていましたよね。目安箱にも、ある女性の方が、平公園や天地山に日よけのテントを設置してほしいです。天地山については、上まで車であがれないのと日よけがないので、1、2歳くらいの幼児は行く所がありません。豊前市以外の公園を利用したりもします。近くに大きな公園があるのもったいないと思います。子どもが小さいうちは、移動だけでも大変です。なるべく近くで、外で遊べるよう工夫をしてください、というような目安箱にあったわけであります。

その他、高齢者、また老人ホームなどでも、もっと有効活用したい、しかし車をあげるのに困難だというふうにありますけど、実際、車を入れることについては、無理なのかどうなのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

お答えいたします。現在、道路等、車で上り下りする、離合する等には十分な幅員がないような状況であります。

ただですね、やはり天地山は高低差がありますので、高齢者、また身障者の方の対応といたしましては、利用者から申し出がございましたら、あそこに事務所の職員が常駐していますので、歩行者と車両に注意を払いながら侵入は許可しています。その場合は、職員がついて対応するという条件付きではございますが、そういう対応をしているところでございます。

また、いま目安箱で言われた件につきまして、うちのほうといたしましても、内容をよ

く把握しようということで、実はお宅にお伺いして、御意見をよく聞いてきたところでございます。

天地山には東屋等、屋根もあるんですが、今回言われたところは、砂場に屋根をという御要望だったので、砂場に屋根を付けるかどうかというのは、ちょっと賛否両論あるところでもありますので、今後の課題とさせていただきます、ということで御了解をいただいたところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

車を入れるということについて、許可という、そういう話ではなく、天地山のほうも、私もちょっと一周回ってきたんですけど、上のほうの左手にグラウンドが2つありますよね。あのグラウンドを駐車場に出来ないのかと。あそこからだと、いろんな所に行きやすいわけですよね。一方通行にすれば、一周回って出口の所は、少し狭い部分があるけれども、少し拡張すれば、十分に車を入れられるスペースがあると思うんですけど、その辺はどうですか。

**○議長 磯永優二君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

議員が御指摘されました多目的グラウンド、2つ、あまり利用頻度はないので、そこを改良するという事は、そんなに時間が掛からないことだと思いますが、上り下りにつきましては、やはり道路の整備等が必要ですし、中々あの中でウォーキングだけでなくランニングしている方とか、そういう方もいらっしゃいますので、いろんな意見を聞いて、これから改良するのかどうかというのも、市長等と相談して対応していきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

もう1点ですね、やはり一番上の所に行く機会が中々ないんですけど、あそこも絶景で見晴らしが良いですね。ああいった所にカフェなど、ウッドデッキで造ったり、そういうふうにしても流行るんじゃないかというふうに思います。

実際に四季の家のほうもずっと閉店したままでありますけど、その中にも実際、公園の中に自動販売機もない、そしてまた実際に豊前市の自動販売機事業につきましては、200万円ほどの収益があがっているというところでもありますけど、販売機を置けば、またそういうところにつながると思うんですが、そのような考えはどうですか。

**○議長 磯永優二君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

自動販売機につきましては、私もいろいろな声を聞きまして、4年くらい前だったと思いますが、駐車場には、ふるさと自販機を設置したところがございます。中々売り上げが多かったので、ニーズはあったんだと考えております。

園内につきましても、いま議員がおっしゃったとおり、売店その他、不可能ではございませんが、どうかたちでするのかとか、四季の家がございますので、四季の家の活用も含めて検討していきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

そのような2点を挙げたわけでありまして、実際にですね、公園の例として、ちょっと説明させてもらいたいと思います。

船橋のアンデルセン公園というのがあるんですけど、USJを凌ぐ日本第3位の人気というふうに挙げられているわけでありまして。

この、ふなばしアンデルセン公園が、日本3位になった理由ということではありますが、1年を通じて様々な花が楽しめる公園でもあり、緑豊かな自然を満喫できる場所としても知られている。そしてレストラン、売店をはじめ、アスレチックス、滑り台といった遊具はもちろん、パターゴルフ、変形自転車、ボート漕ぎ、ポニーと乗馬、アクティビティの種類は数えきれない。水遊びができる広大な池、兎などと触れ合う小動物園やミニSL車というふうなかたちであります。

入場料が大人900円、飲み物も持ち込み自由ということで、ここの施設につきましては、初めから大きな施設じゃなかったわけです。歩みといたしましては、昭和62年にわんぱく大国というのをオープンして、少しずつ各ゾーンを広げていった。平成8年にわんぱく大国も含めた全区域がアンデルセン公園としてオープンした。そして平成19年度、4つ目のゾーンがオープン、23年には5つ目がオープンということであります。

開設当初は11ヘクタールということであります。現在、30ヘクタールで総合公園となったわけでありまして、東京ドームで言いますと6個分に相当するということになります。

管理は指定管理として、公益財団法人船橋市公園協会ということではありますが、天地山公園の敷地もある程度広い、20ヘクタールですか、広いかと思えます。敷地、ゾーンのほうも各ゾーンがやはり8、10とあるんじゃないかなというふうに思いますが、私の提案といたしましては、この天地山公園のリニューアル案ということになります。

レストランや売店をはじめ、花見会場のブース、そしてドックラン、そして噴水の所で水遊びとか、池に船を浮かばせるとか、草スキーをさせるとか、ステージではバンドなど、様々なイベントをさせる。

そして例えばそういうペットとかポニーとありましたけど、恵光園でも馬が5頭いるわけですね。乗馬とかもあるかと思うし、そういうところを市の負担が掛かるんだったら民間委託で個別に受ける所があったら、そういう所にしてもらうとかですね、そのような大胆な、そういう計画をしないと、本当に足を運んで来るということは、現実的に、そのくらいしないと呼び寄せられないんじゃないかというふうに思うところが私の提案ということでありまして、この辺につきましては、副市長、一言お願いします。

**○議長 磯永優二君**

副市長。答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

議員の御指摘で、都市公園の関係について考え直すということは可能だと思いますが、ただ都市公園に選定されたときの状況というのが、あそこには自動販売機を置かない、あるいはごみの捨て場を置かない、いろんなことでの都市公園100選に選ばれた経緯があります。そういった経緯を、まず考えるべきではないかと。

それからそういった公園を今後もし改良ができるとするなら、そのことをおこなうことによって、経済効果があるのか、それだけの投資をして、豊前市としてそういった魅力づくりができるのか、そういったものを全て含めて考えていくべきだと考えておりますので、その辺の観点から、庁内で検討して、いろんな良い方向にもっていきたいと思います。よろしくをお願いします。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ぜひですね、実際いま選ばれた経緯というふうにありましたけど、実際、これはもう国土交通省の管轄なんですよね。県とかに尋ねたんですけど、やはり基本的なそういう火を持ち込まないぞというのは市の条例で決めていくと聞いております。

ぜひですね、市民ニーズに合った、そういう環境というものを、いま大きい、壮大な提案というのをしたわけでありまして、そういうことも必要じゃないかなということもありますけど、一つひとつそういうものを取り入れていくという考え方もあるかと思えます。ぜひとも庁内で考えていただきたいというお願いをしたいと思えます。

それでは、3つ目の質問をちょっとバタバタしたいと思えます。

市民サービスと予算についてという質問をしたいと思えます。市民サービスにおける予算、陳情や要望に対して、市民には、予算がないので厳しいという、というようなことを、



市民から聞くわけであります。その豊前市は、実際にお金をどんどん使っているように見えるけど、大丈夫なのか、そのうち、再建団体になるのではないかと、というようなことも市民の中から声を聞いたりするわけであります。

実際、豊前市の予算がどのように動いているかということが気になるわけであります。ちょっと中々行政予算というのが分かりにくい部分がありまして、私の大きい括りとして、ちょっと気になる3点で、平成25年度、26年度は、予算が115億円ということであったわけであります。そして平成27年度当初予算は、116億円、予算があがってきたわけであります。そして今年度は120億円ということで、右肩上がりですけど、もうこれは大丈夫なのか、ということが1点であります。

2点目が、これは市長の部屋でも言われていました。経常収支比率95.8%、しかしこの額は、税収や交付税の約70億円に対する額ということで、実際、今回予算を120億円組んでいるということは、この差額の中身は何なんだろうかと、いうふうなところが1点であります。

3つ目が、当初予算の中の120億円、この中に財政調整基金が幾ら組み込まれているのか。貯蓄を入れて予算を組むのは、厳しいという前兆ではないのかと、ちょっとこのようなことが3点、気になるわけであります。

私がお伝えしたいのは、当初予算を組む際に、財政調整基金を入れないで予算を組むというやり方は、現実に難しいのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

議員言われるように、財政調整基金を入れないような予算組が理想的だとは考えておりますが、現状では、中々困難な状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

実際、難しいということでもありますけど、歳入の範囲で当初予算を組んで、この調整基金を組み入れるときは、補正の際に急を要するかどうかというところを、将来性、採算性があるかを見極めて、この財政調整基金を補正のときに入れるとか、その部分に近づけるべきではないかというふうに思いますけど、いかがですか。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

そうですね、市民ニーズ等の対応で、各課の事業積み上げもありますので、中々難しい

状況にございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

実際、いまの予算の計上では難しいのかなというふうを感じる部分もありますけど、やはりそこにもっていくためには、どうしたらいいかということでもあります。

この一番の財政面の問題になるのは、決算後の調整基金を幾らつぎ込んだかではないかというふうに思います。26年度は、実際に1億7000万円を切り崩したということでもありますけど、これはもう毎年切り崩していけば、これから人口減少、税収の減を考えれば、数年後、数十年後、どうなっていくかと考えれば、想像できるんじゃないかと、もちろん御理解しているかと思います。

27年度決算に向けて、そのようにならないよう、策は、どのように考えているのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

交付税等はまだ額が確定しておりますので、あと、税のほうの徴収率を上げて、歳入を最大限確保するということが重要かと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

税の徴収率アップというのが、これから上げるためということでもありますけど、じゃあ今まで以上に税の徴収率を上げるために、新規取り組み、いままでと変わった取り組みとあるのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

税務課長、答弁。

**○税務課長 福丸和弘君**

税の徴収の取り組みですが、いままで以上に市民税につきましては、特別徴収の推進、口座振替の推進等、それから差し押さえ等の滞納処分、納税相談に応じない方等に、いま厳しく対応しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

その辺が重要ということであるわけでもありますので、ぜひとも担当課長、よろしくお願

いします。

この市民サービスにおける予算や事業、予算がないという声を聞くわけですが、この事業における予算、この市民サービスにおける予算ですね、そして事業予算等は、総額を決めて配分をされているんですか、それとも各担当課から積み上がってくるのか、その辺をお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

事業関係の予算につきましては、各課からの積み上げによって要求が上がってきております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

予算を積み上げてということでありまして、この辺につきましては、私は、ちょっと内部的にまだ分からない部分がありますけど、基本的には、やはり民間でもある予算の中から、どう配分するかというところで、この予算の内容を出して、やはり三役、担当課等で、そこから協議して割り振ったほうがいいのではないかなというふうに、ある予算内で、そういうふうにやっていくように近づけないと、実際に担当課、担当課で、皆さん、いろんな事業等、継続事業があろうかと思いますが、その辺の取り組みが必要ではないかというふうに感じるところであります。

やはり担当課から事業を上げてきていたら、どうしてもやっぱりやめるのが難しい、でもやっぱりいろんな部分で、行政の予算は一度つけば一生続くと前回も言いましたが、サンセット方式、見直すためにも、一旦上げて、その分を取り組むべきじゃないか。やはり今までの3万人の人口に対して事業を組んでいたものが、今度は2万人の人口に減っていくという想定で事業をカットしていくためには、その辺の事業内容の見直しというのが必要ではないか。この辺がとても気になるところであります。

ぜひですね、この部分につきましては、市民の大事な税金でありますので、ぜひとも安心・安全なまちづくりができるよう、予算を使っていただきたいというふうに思う、お願いにさせていただきます。

最後になりますが、今後の豊前市の発展、執行部の今後の活躍を期待いたしまして、私、1期目の最後の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

**○議長 磯永優二君**

黒江哲文議員の質問が終わりました。

続きまして、鈴木正博議員。

#### ○4番 鈴木正博君

こんにちは、市執行部の皆さん、それから議員の皆さん、私たち豊明会、新人3名の一般質問に4年間お付き合いいただきまして、誠にありがとうございます。今回ですね、28年度第1回一般質問におきましては、最後の質問になりますので、市の執行部、市長はじめ真摯な回答をよろしくお願ひしたいと思ひます。

まず、最初に、順番がちょっと変わりますけど、人口問題を先に質問したいと思ひます。

前回、人口問題で、増田レポートの問題をあげましたけれども、東京一極集中、少子高齢化が招く人口急減。国は2060年の総人口推計で、8700万人まで減少することを示され、これは泥縄式だと思うんですけど、平成26年に、まち・ひと・しごと創生法を制定しました。

2060年に人口1億人程度の人口を確保するため、国の総合戦略を示し、2015年から2019年の政策目標、施策を策定しております。地方に人口動向や将来人口推計の分析、中長期の将来展望を示すように提示しております。それがここにあります総務省の、まち・ひと・しごと創生長期ビジョンとあります。

これが中長期展望として、1つに人口減少問題の克服、それから2つ目に成長力の確保とあります。基本目標として、地方における安定した雇用を創出する、地方への新しい人の流れをつくる。若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える。時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する、というような内容で総合戦略を出しております。それに基づいて、豊前市は、本年度、市民に豊前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要版を示しながら、市民に協力をお願いしております。

2035年の推計では、人口2万人を切る予測の中で、人口の将来展望として、2040年に2万人を維持目標としながら、その対策として、交流人口の獲得、それから自然環境を生かした子育て世代への施策、若い世代が安心して暮らせる雇用環境の整備を挙げております。

前からあるんですけども、国の施策、それからそれに基づいたそれぞれの地方自治体の施策は総花的で、そりゃ確かに全体の成果を上げればいいんですけど、実際にはあまりにも多いメニューでありますので、中々目標を達成しておりません。

私はですね、議員に立候補する前ですけど、子育て支援が一番必要だと思って、立候補するときに提示しております。そこで、私自身の考え方ですけども、私は豊前市の一番重要な施策は、子どもを育てやすい環境をいかにつくるか。子育て支援が当たり前の社会にするかが重要と考えます。

豊前市は、平成27年3月に子ども・子育て支援事業計画を策定しておりますが、その主な施策をお知らせください。

#### ○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

**○福祉課長 藤井郁君**

それでは、議員さんの御質問にお答えさせていただきます。

子ども・子育て支援事業計画につきましては、私、福祉課長でございますけれども、福祉課の分野だけではなく、あらゆる子育て支援に対する計画となっております。

全てについて御説明申し上げるとするのは、中々短い時間でございますので、割愛させていただきます。もともと計画の趣旨として、子ども・子育て支援法が施行されましたので、それに伴いまして、まず質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供、保育の量的拡大確保、教育・保育の質的改善、地域の子ども・子育て支援の充実、これを柱とした豊前市における5年間の計画を策定させていただいたというところでございます。

基本目標として、4つを挙げております。

1つは、こころ豊かに育つ子どもの育成。2つ目、親と子がともに育つ家庭への支援。3つ目に育児も仕事も生きがいをもてる環境づくり。4つ目に子育て家庭を支えるまちづくり、といたしまして、この4つの基本目標において、基本理念であります、親子と地域ともに元気に育つまち豊前、をつくっていこうという計画になってございます。

計画の重点項目といたしましては、計画を策定するにあたりまして、子ども・子育て会議を開催して、いろいろな意見をいただいております。それと、事前にアンケート調査を実施しております。この会議における意見、あるいはアンケート調査の内容も、当然、反映をした計画になってございます。

具体的に挙げますと、乳幼児期における訪問、相談機会、健診の充実、相談体制の充実、情報提供、情報発信機能の充実、保育サービスの充実、放課後児童クラブの整備、遊び場の充実、こういう点を重点項目において計画のほうの策定がなされたというところでございます。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

この冊子ですね、見させていただきましたけれども、立派なものだと思います。ただ、福祉課長が言われるように、福祉事務所主体の計画でございますので、全体的にはっきり言って欠けるところが、子どもというと、どうも私の感覚では中学生くらいまで子どもと言えるんじゃないかなと思って、例えば学校教育とか、そういう部分にもあるし、それから生涯学習の関係でも、いろいろ含まれるんじゃないかと思います。

そういう観点から考えると、いろいろ縦社会の中では、横の問題が非常に難しいのかと思います。それが、私が考えるには、1つは、豊前市がこういう良い子育て支援をしていますよ、というメニューの中に、要するにはっきり言って、横のものを全体を挙げてメニ

メニューを挙げて、こういうことを豊前市はやっているんよ、というようなことを宣伝したらいいんじゃないかと思います。

そこで、ちょっと福祉課長にお聞きしますけども、そのメニューの中に、いろいろな助成とかありますけども、総体的に考えて、特別に周辺市町村と比べて、良い施策であるかどうかをお聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

福祉課長、答弁。

**○福祉課長 藤井郁君**

そうですね、全体的なメニューといたしますと、そんなに大きな差はないというふうに認識いたしております。ただ、プラスの部分で申し上げますと、1つは、すこやか赤ちゃん出産祝金、これは近隣自治体にはないものだというふうに自負をいたしております。それと、放課後児童クラブにつきましても、各近隣自治体の状況を見てみますと、対象学年、あるいは延長保育等については、豊前市が優位性があるというふうに判断をいたしております。

その他ですね、今年度、保育料の見直しをさせていただいたところでございますけれども、ひとり親世帯に対する減免というところ、全階層で豊前市のほうは実施をいたしております。その点については、優位性があるというふうに考えております。

それと、いろいろ階層がございまして、単純な比較というところでは、非常に難しいところではございますが、各階層を比べてみますと、今回の見直しで、かなり階層によって優位性のある部分も多くなったというふうに考えております、以上です。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

そうですね、私、議員になる前の公約として、保育料の第3子無料化の問題で、選挙前に公約をしておりましたが、議員になってからすぐ実現しましたけれども、それは、以前から市議会議員の先輩の皆さん方が、よその周辺市町村のメニューを見ながら、なぜそこに到達しないのかというようなかたちでやっていたと思うんですね。一番いい例が医療の中学校まで一部負担がありますが、無料化があったんですが、それも実現したんですが、ほとんど見ますと、私どももそうですけど、周辺市町村と比べながら、なぜできないのかというようなかたちでやっております。いま福祉事務所が、こういうところを豊前市は特別にやっておりますよというような中身があります。

まだまだ周辺市町村とどちらが良いかということになれば、比べるわけですね。そうすれば、インフルエンザの予防接種なんか、まだはっきり言って周辺市町村に比べれば、補助が足りないようなところもあります。

今回ですね、私がこういう質問をなぜするかと言いますと、1か月ほど前、1月だったと思うんですが、NHKおはよう日本、首都圏人口移動を子育てが決める、プロジェクト2030という放送がありました。皆さん方は働いているから見ていないと思います。再放送もあったようですから、もしかしたら見ているかもしれません。

その内容が、地方自治体として、あまりにも現在の問題として生々しい内容だったから質問するわけです。

皆さん御存知かと思いますが、千葉県銚子市、漁業で有名な所ですけども、利根川の橋を渡って茨城県の神栖市という新しい市があります。ところが利根川の橋を渡って銚子市から神栖市に移り住む若い人が、ここ10年間急激に増えております。それも実際にNHKで調べて、そういう放送をしたんですけども、福祉サービスの格差が歴然としているわけですね。ですから子育ての途中の親は、平気でと言うとおかしいですけど、故郷か何か分かりませんが、アパートに住んでいるか分かりませんが、橋を渡って隣の市に移るそうです。

それがなぜかという、さっき言いましたとおり、福祉サービスの子育て支援のサービスを比べてみるわけですね。実際、銚子市のほうが、財政状態が悪いものですから、そこまで手当ができないわけですね。ですから、そこに流出しているわけです。

実際に地図で見ますと、銚子市は首都圏に近いわけです。神栖市のほうが、太平洋側に面した所の茨城県にあるんですけど、そういう意味で言えば、そういうことはあり得ないんですけども、内容を見ると、福祉サービス、特に子育て支援の問題で、増えているようです。

そしてその中で、将来人口の件で言いますと、2030年、神栖市では4000人の人口増と予想しているそうです。それから隣の銚子市では、30%減の4万8000人を下回ると推定されています。これは、それぞれの市がそういう言い方をしているんですが、ちょっと30%とか4000人とかいう問題がありますけども、ただ神栖市のほうは増えますよ、銚子市のほうは減りますよ、という問題なんです。

この問題は、ずばり先ほど表題にありましたとおり、人口移動を子育てが決めるんじゃないかという、将来的な地方自治体の問題があるわけですね。この辺の周辺と言いますと、周りに囲まれているんですけど、吉富町、上毛町、それから築上町、そして一つ川を挟んで中津市とかあります。そういう問題で、その辺のひそかな競争と言いますか、子育て支援の競争が、はっきり言って、人口を決める、そういう世代の移動を促しかねないという一面があるんじゃないかと思います。

そこで、人口問題の、私が非常に問題にしておったと思いますが、市長のほうに、ちょっとその辺をお聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

若い世代の人口が増える、活力が上がる、将来明るい展望が描ける、そういう姿を描き、我々も人口増、特に若い世代の人口が増えればいいな、というのが切願しているところでございます。

ただ一方で、それがこの地を愛するから増えてくるというかたちであればいいんですが、サービスを求めて来る方々が増える、それに対応するサービスをもっと周辺に比べてアップする。この競争をしていたらどうなるのかなという、ぼんやりしたプランもあります。

私たちは地域間競争がありますから、当然、他よりも安心して安全に、そして安く、経済的に子育てができればいいな、というのが求めるところであろうと思います。

ただ、そういうサービスを求められる方々が本当に定住していただけるのかどうか。サービスを受ける期間、子育ての期間が終わったら、子どもたちがどこかに出て行ってしまいうような地域をつくってはいは、これでは何のために子育てをしたのか分からない部分が見えてくると思います。

私たちは併せて、この土地を愛する、豊かな自然だとか伝統文化、特に国の無形民俗文化財、無形文化財に指定されるということになりました、豊前神楽や八屋祇園や宇島祇園を代表する祇園、こういう地域の伝統的な文化も併せて伝えていく、そういう部分にも力を入れ、だから離れられない。祇園のときによく聞きます、神楽のときによく聞きます、故郷に帰りたいという声を、その部分にも力を入れながら、地域間競争を勝ち抜いていかなければならないのではないかと思います。

そういう意味では、もちろん目の前に見える行政サービスをきちっと他に負けないようにするというのは、ある意味では当然ではございますが、それに併せた施策も必要であるというふうに認識しております。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

市長の言うとおりでとは思いますが、やっぱりよそに負けないように、子育て支援をやっていくのが一番良いことではないかと思います。

予算、いろいろあろうとは思いますが、優先的にその辺をしないと、たぶんその辺で劣ったら人口は増えないというよりも、どこも増えないんですけど、減り方が激しいんじゃないかと思います。

市長が言われるように、それぞれの地域でそれぞれのいろんなことをやっていくのがいいことだと思います。三毛門でもいろんなことをやっております。夏休みは朝学習、それからカボウインとか、新しい事業が起こっております。はっきり言って、その地域で子ど



もたちが、若い人が定着できるような新たな祭りとか、そういうのを起こすのが一番良いかとは思いますが。

そういうことで、行政がどこに重点的に目を配るかによって、私は行政のはっきり言って、その立ち位置が決まるし、それから将来も決まってくると思います。総花的じゃなくて、いま予算がありません。ですからそういう点で行政運営をお願いしたいと思います。

それから、次に、農業問題について、お聞きしたいと思います。

先月ですね、農業者、行政、それからJA福岡京築、議会産業建設委員会の委員の懇談会の中で、これからの農業について話されました。市長も出席されていますし、それから農林水産課長も出席、それから係長あたりも出席されていたんですけども、一般質問であるように、山間部での鳥獣被害の問題とか、それとか中間部での担い手の問題とかですね、それから未整備地区の作り手、それから作ってもいいが土壌が悪いから作れないとか、いろんな問題が挙がっておりました。

それで1点目の提案ですけど、これは何回も質問がありましたし、それから副議長のほうからもいろんな質問があっておりますけれども、もしかしたら明日、質問があるかもわかりませんが、簡単に質問しておきたいと思います。

以前から、私も好きで鹿や猪の肉を作っておりますけども、それは公的な保健所が許可が下りた施設で捌くと言いますか、そういうことになれば、みやこみたいにお金になるんですね。そういうことで、有害鳥獣の駆除をしている方も、お金になればもっと進むと思うんですけども、これは簡単でいいですけども、副議長も質問しておりましたが、そういう施設ですね、出来るのか出来ないのか。

はっきり言って、早くやらないと、遅れると、もうやってもしょうがないみたいになります。そういうことで、ちょっと担当課長、一言だけ。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

先般の12月の議会で、山崎議員に御質問いただきました。このジビエの対策をどのようにするかということでお答えをしております。それを受けて、庁内で協議をいたしまして、いま場所選定、そしてまた地元にもどのような説明に入っていこうかということで内部で議論を深めております。

いろんな諸問題が少しあるもんですから、その問題を解決して、早急に場所を、地元にお話をして取り組みたいと思っています。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

ぜひ、お願いしたいと思います。

それから防護柵の問題で、ちょっと挙がってきたと思うんですけど、防護柵の助成を、より使いやすい助成措置にできないかという件が挙がっていたと思います。その件は、回答はいいと思います。その件は要望として、検討してほしいと思います。

それから2点目は、担い手の問題ですけれども、少子高齢化が進む豊前市では、非常に難しいとは思いますが、課長として、将来展望があるんよというようなことで示されておりましたけれども、いろんな、この前、その話の中で、作物を作ってもいいけど土壌が悪いという、さっき言いましたけど、その対策をとったら、もしかしたらジメジメした所が乾いたら、麦とかそういうのができるんじゃないかと思えますけれども、そういうことの要するに対策があるかどうかをお聞きしたいと思えます。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

鈴木議員の御質問に、お答えいたします。

これまでの土地改良事業というのは、一定程度の規模や整備水準が必要でございましたが、現在、作り手の不足、また耕作放棄地の増加等を踏まえた中で、中間管理機構による農地の集積等が進んでおります。そういったものを活用する中で、小規模できめ細やかな基盤整備事業も可能な状況になってきました。

地域で、そういった担い手の方を指定していただいて、そういう方に一定程度の農地を預けるという条件のもとで、そういう改良事業等もおこなえる状況でございますので、今後、地元とよく相談しながら事業の説明や推進を図っていきたいというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

次に、3点目ですけども、未整備地区ですね。非常に作り手の問題で、大型機械が入ってくるんで、中々、してもいいけどできないみたいなどころがあるようです。

現在、豊前市では、県の事業で大きな農道をやる予定になっています。しかしながら、その農道だけじゃどうしようもならないところがあるんじゃないかと思えます。

そこで市長に提案しますが、11月の臨時会で議員の定数を減らしました。実際、二人で1千万円は超えると思うんですけども、その辺を500万円くらいを使って、農業の整備事業に投資すること、要するに周辺整備ですね、先ほど、黒江議員の住宅のことで挙がりました。それとちょっと違いますが、ただ農道を整備して広くしたりすると、いろんな面で、先ほど言いました担い手の作るほうが作りやすくなると思うんです。

要するに一気に余計に投資するというのは、非常に難しいと思いますけども、思えば、議員二人、議員のほうからの提案で減らしたわけでございます。500万円くらい、単独でその予算をみることはできないでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

いま11月の臨時会で、議会の皆さん自ら身を切るという覚悟をしていただきました。その結果、削減される予定の予算が見えてきます。

ただ、これも議会の皆さんが身を切った、その覚悟で取り組まれた決断でございます。しっかりと議会の皆さんの意見を聞きながら活用していくのも大事なことではないかと思えます。いま御提案として受けさせていただきます。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後に、豊前市行政のスリム化と行政サービスということについて、質問をしたいと思ひます。

12月議会でしたか、3件の民間委託の件で提案がありました。それは契約もしたし、予算もあらかじめ示されて、議会のほうがOKを出したところでもありますけれども、ただ心配されるのは、民間委託したら、市民から、サービスの低下があるんじゃないかということで、いろいろ言われております。

その辺ですね、大丈夫というような話を聞きたいと思ひますが、3件、清掃と学校給食、それから図書館ですね、簡単によろしくお願ひします。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

清掃の民間委託についてのみ、お答えさせていただきます。

絶対にそういったサービスの低下、あるいは問題が起こらないように、全庁的に取り組んでいきたいと思ひます。万が一、問題が起こったときには、早急に連絡していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

**○議長 磯永優二君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 武道和宏君**

学校給食の調理業務の委託につきましては、昨年の12月議会でも債務負担の議決をいた

だきましたので、年が明けてから、いまその受託をした業者と話し合いをしているところでありまして、まず最優先として、現在、働いている臨時の調理員の優先雇用の件で、いま調整をおこなっているところでありまして、受けた業者のほうも、これまで通りの給食の提供を安心して4月以降もやりたいということで、いま話を続けているところです。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 向野隆裕君**

図書館の指定管理でございますが、12月議会で、新たな指定管理者の議決をいただいたところでございます。

現在、新たな管理者との協定に向けて、いま協議をしているところでございます。

図書館の運営につきましては、これまでやってきた取り組みにつきましては、利用者の混乱を招かないように、それを継続することを、まず優先していただきまして、そのあと新たな取り組みについて頑張っていただきたいということで、いま協定を、話し合いをしているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

特にですね、学校給食については、食の問題ですから、いままで事故が起こったというようなことは、あまり聞いておりませんので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、民間委託に関しましては、メリットとしては財政面だと思います。今度の場合、財政面で検討したかどうか分かりませんが、財政課長、その3件について、お聞きします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

ごみの収集のほうと給食のほうにつきましては、削減がいくらかなされているのではないかとということで協議は受けております。

図書館の指定管理につきましては、上限を今までの2000万円ということで募集しておりますので、2000万円の中で応募があったということでございます。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

清掃の問題ですけれども、私ちょっと新予算を見せていただいたんですけれども、はっきり言って、清掃の職員がおります。新しく民間委託します。それで財政面でメリットが

あるんですか、ちょっとお聞きします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

この1、2年の中の短いスパンで考えれば、当然、ダブルカウントというか、そういうかたちにはなりますが、長い目で見ると、当然、その担当の職員が退職すれば、補充を、一般職で補充もできますので、それはメリットがあるというふうに庁内で統一しています。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

契約について、金額については、もう既に議会を通しておりますから、その辺は言いません。言いませんけれども、時期的にちょっと早かったんじゃないか、もし1年ずらせば5000万円、お金がそこに生まれるんじゃないかなというような素人考えでございますけれども。

次に、委託するのはいいんですけど、委託した後の豊前市全体で言いますと、11くらい施設があって委託しているんですけども、それぞれ決算書を出していただいて、それを評価すると言いますか、するんだと思います。その辺で、特に今回大きな金額で民間委託されるわけですけども、これからの問題もあるんですが、図書館の問題ですか、図書館は既に民間委託されて、もう3回目ですか。その辺の検証と言いますか、したかどうかを、財政課長、お願いします。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

議会でもいろんな御意見をいただいてしておりましたので、そういうところは募集要項等、再度確認をして、またプロポーザルの中でも、そういう質問をしていたように私は記憶しております。検証はしたものでございます。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

分かりました。1つは、出すのはいいんですけど、それを検証する。なぜかという、私が委員会で質問したとおり、もしかしたら今回の3事業に関しましては、儲ける所と儲からん所とあるんじゃないですか、というお話をさせていただきました。

それは、図書館が赤字で運営されていた面があるんですね。実際に人数を見ますと、現在、アルバイト等を含めて11名ですか、それでやっているようでございます。今回、清

掃というのは、もう実際にやってみないと分からないんでしょうけれど、その辺の金額が、たぶん同じくらいの間でやっているでしょうから、この辺は委員会で質問したから言いません。

けれども精査して、3年契約ですから、1年、1年、もしかしたら決算をいただくかもわかりません。その辺で精査して、要するにあまりにも儲け過ぎちゃおかしいんですが、儲け過ぎはないんですけど、儲けるものと損をするものがあるとは思わないと思うんですね。だからやはり公平に市が民間委託する分についてはしないと、もしかしたら疑われます。もしかしたら紐付きで誰かにやったんじゃないかと、儲け過ぎるとそういうことになると思います。

ですから、ぜひですね、それぞれの決算報告等をいただくとするんですね。だからあまりにもむげないとか、赤字を出すようなことじゃなくて、やはりそれ相応のお金をやって、それ相応の運営をしてもらわんといかんと思います。

図書館あたりは赤字を出しているようでございますが、それに関して、生涯学習課は、ああやってくれ、こうやってくれというような要求があるようです。そういうことで、これは私が言うべきことじゃないんで、行政側がその辺を検証しながらやっていかないと、要するに私も言われるんですね、あれはちょっとおかしいんじゃないかと。儲け過ぎじゃないかと、誰か紐がついとるんじゃないかと。そういう話になります。そう言われたら質問をせないかんですからね。そういうことのないように、ちゃんと検証しましたということで、今後やってほしいと思います。

以上で、質問を終わります。

#### ○議長 磯永優二君

鈴木正博議員の質問が終わりました。

以上で、豊明会の質問を終わります。

ここで議事運営上、暫時休憩をいたします。なお、再開は放送にてお知らせいたします。

休憩 14時36分

再開 15時00分

#### ○副議長 山崎廣美君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行します。

同志会の一般質問をおこないます。福井昌文議員。

#### ○5番 福井昌文君

一般質問初日の二番目に質問をおこないます。同志会の福井です。執行部の前向きな答弁を期待いたしまして、質問を始めます。

順番がちょっと前後しますがけれども、最初に教育問題について、次に観光について、次

に、ごみ焼却場について、そして最後に安全対策について、という順番で質問をさせていただきますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

教育問題についてであります。子どもの貧困対策について、お尋ねいたします。

生活困窮などのため、十分な教育を受けられないことから生ずる親の世代から子どもの世代への貧困の連鎖、それを防ぐ子どもの貧困対策として、日々の生活支援の柱となるものに、学習支援と食事支援がありますが、豊前市としては、何か考えていますか。

**○副議長 山崎廣美君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 武道和宏君**

お答えいたします。貧困家庭に対する教育上の支援といたしましては、就学援助規則に基づく助成制度があります。また貧困対策というわけではありませんが、幼稚園に通う子どもさんをお持ちの家庭に対する助成制度として、幼稚園就園奨励費補助金制度があります。

また、こちらも貧困対策のためにおこなっているわけではありませんが、今年度から平日の放課後を活用した学力補充のための学習の支援、寺子屋というのを開始しております。以上です。

**○5番 福井昌文君**

これは、だいぶん前からやられていることですよ。寺子屋は昨年ですかね。

**○副議長 山崎廣美君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 武道和宏君**

寺子屋に関しましては、今年度からです。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

いま現在ですね、この貧困に対して、国も県もかなり力を注いでおります。小川県知事が今年の仕事始めの年頭での挨拶で、子どもの貧困対策を挙げていたしました。こういう意味で、県もかなり今年、力を入れることと思います。

そして学習支援の1つとして、平成27年度から地域住民が参画する学校支援地域本部を活用した事業として、地域未来塾が始まっていますが、当豊前市においては、取り組みなど検討されていますか。

**○副議長 山崎廣美君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

お答えいたします。豊前市には、教育協議会という組織がございます。それをより膨らませて、いま議員が言われるようなかたちで、新年度、県の指定を受けるような話が進んでおります。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

いまから注目する事業であるとは思いますが、この地域未来塾というのは、国の施策で、子どもの貧困対策推進法に基づく、子どもの貧困対策大綱の重点施策である、学校をプラットフォームとした総合的な子どもの貧困対策の転換の一環であると聞いています。

生活困窮者自立支援法上の施策でもありますが、こういったことを耳にしたことはありますか。

**○副議長 山崎廣美君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 武道和宏君**

誠に申し訳ありません。その件については、聞いたことはありません。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

課長、教育課長ですので、こういったことは、常にアンテナを張って、情報を仕入れてもらいたいと思います。

いま現在ですね、18歳未満の子どもの貧困率は、6人に1人とされておりまして、これは教育新聞、報道等で常に言っていることですね、過去最悪であるということですね。こういったことから、国も県も力を入れていることなので、もう一回、考え方をお聞きします。

**○副議長 山崎廣美君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 武道和宏君**

子どもの貧困対策の推進に関する法律というものが、平成26年1月に施行されております。そして豊前市の就学援助の状況に関しては、先ほど福井議員からもお話しがありましたように、6人に1人が貧困の状態にあるという結果が出ているというお話がありましたが、豊前市でも、小学校では、それを少し下回るような状況、中学校ではほぼ全国平均と同じくらい、あるいはそれを少し上回るような状況ということになります。

貧困であるがゆえに教育の機会均等が阻害されるといったようなことが決してないよう、配慮していきたいというふうには思っております。



**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひ早急に、早めに、こういった良い施策ですので、取り組んでいただきたいと思えます。簡単に地域未来塾の説明をしますと、地域未来塾は、経済面も含めた家庭環境の問題などで勉強が遅れがちな中学生を中心に、学校の空き教室などを活用して、放課後に学習の時間と場所を確保するというをおこなうものであります。

いま寺子屋を始めて、これはもう寺子屋は小学生のみで、中学生には誰も恩恵がないということで、こういった事業がせつかくあるんだから、こういうのを取り込んで、中学生にも環境の場を与えてもらいたいと思えますが、一言お願いします。

**○副議長 山崎廣美君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 武道和宏君**

学校現場とも十分協議をしまして、しっかり検討したいと思えます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

そしてこれは、国の事業ですので、ここに4つあるんですけども、学習支援、私が言っているのは学習支援ですからね、学習支援でも補助金が付くようになっています。こういうのを利用して、ぜひ前向きな方向でやってもらいたいと思えます。御意見をお願いします。

**○副議長 山崎廣美君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

国の事業が県において、県より指定というかたちで各市町村においてくると思えます。まだ具体的な中身としておりてきておりません。そういうことも含めて、今後可能であれば、その指定を受けるというようなかたちも大事だろうと思っておりますので、今後検討していきたいというふうに思えます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

この地域未来塾は、平成28年度予算では、3100中学校での実施を図り、政府は平成31年度までに5000中学校区で実施することを目標としているようであります。これは、全国の中学校の約半数に当たる数なので、かなり広域にやる事業だと思えますので、

ぜひやってもらいたいと思います。

子どもの教育は、青少年の育成において極めて重要であると考えます。豊前市におかれましても重く受け止め、教育行政に取り組んでいただくようお願い申し上げ、次の質問に移ります。

(教育長、挙手あり)

では、教育長、一言お願いします。

**○副議長 山崎廣美君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

子どもが経済的な理由で日常生活や学校生活、学習に支障をきたすというようなことがあれば、これは非常に問題だろうと思います。今後、豊前市におきましても、先ほど答弁しましたように、県の指定等を考えながら推進していきたいというふうに考えております。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

市長、教育にかなり力を入れておられるようですけれども、いまの意見に、一言お願いします。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

格差社会と言われております、国際的にも同じだと思えます。格差社会の中で生まれる貧困。貧困層から脱却する。貧困への支援というのは、あらゆる面で経済的にも精神的にもいろいろあると思います。そういう面で、一番最初におっしゃった食料支援と教育支援と大きく二つあるんだろうと思います。

食料支援をすれば、いつまでもその食料にぶら下がって、支援をずっと続けなければならない。しかし教育支援で自立する方向にもっていけば、独立して、自分で生きていくことができる。そっちの支援をもっと大きくしろというのが大方のところだろうと思います。

これは、日本においてもそのとおりであろうと思えますし、子どもたちの置かれた環境で格差がさらに開いていくというのは、絶対に許せる話ではありません。子どもたちが貧困であるがゆえにみじめな思いをしない、親の立場で格差がそのまま子どもの格差につながるないように、我々は気を付けていかなければならないと思います。

そこで、子どもたちに、その持つハングリー精神、この野郎、という気持ち、この辺をしっかりと引き出しながら、その力を学習や教育の中で、自分を伸ばしてく力にかえていけ

るように、教育委員会ともども力を合わせていくように、頑張っていきたいと思います。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

子どもに罪はないと思います。皆平等と思いますので、ぜひ今後の対策を、取り組みをお願いいたしまして、次の質問に移ります。

次は、観光についてであります。豊前市は東九州自動車道の開通に向け、観光行政に努力されているようにありますが、ここ数年の観光客数の推移を、まずお尋ねいたします。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

観光客の推移でございますが、増えている所、それから若干減っている所とございますが、ここ23年から26年の4年間では、横ばい状態だと考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

横ばい状態の中でも、減っている、増えている所がございますけれども、豊前市の主な観光名所を確認したいと思いますので、教えていただけますか。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

いま、うちの主な観光施設、特に人数の多い所から言いますと、道の駅おこしかけ、ト仙の郷、畑の冷泉、またイベントについては、カラス天狗祭りやゆず祭り、それから河津桜祭り、この辺が観光客数、入込客数の多い所だと考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

いま申されました、その観光の名所ですね。観光整備等は整っていますか。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

まず道の駅に関しましては、開通を目指して、一昨年に改修工事をおこない、客単価の向上に向けて、買い物カゴの導入等をおこなったところでございます。

またト仙にいたりましては、昨年度、改修工事をおこない、新しい指定管理者によって

運営をなされているような状況でございます。

畑の冷泉につきましては、27年4月から茶店をリニューアルいたしまして、地元の方の協力により、美味しいまた食事の提供、新たなサービスの提供を始めまして、連日、お客さんがたくさん来ていただいているような状況になっています。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

何箇所か整っている所を聞きましたけれども、お土産や物産品の販売やトイレなどは整っていますか。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

まず、お土産等ですが、お土産については、軍師官兵衛の企画があったときに、特産品研究会等の御協力があって、新商品の数が増えました。また、全線開通に向けて、道の駅独自のオリジナル商品の開発、販売というのも手掛けているところでございます。

トイレにつきましては、前の議会でもお答えいたしました。順次、洋式トイレの設置等をおこなっているところで、今年度は求菩提の駐車場のトイレ、これに関しては県の所管になりますので、県のほうにお願いして、現在協議をしているところでございます。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

お土産や物産品、またトイレ、いろんな施策をやっているようですが、例えば私の聞いた話ですが、築上町の綱敷天満宮ですね、そこは、参道にお店が出るわけですが、必ず築上町のパンフレット等を置いていると聞いています。

豊前市も各イベント等で、そういう物産品とかを売っているんですけど、やはり豊前市のパンフレットですね、豊前市をPRするために、そういうのを置く考えはないでしょうか。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

お答えいたします。市外であるイベントに豊前市が物産等で呼ばれている場合は、パンフレット等を必ず持っていくようにしています。

ただ、市内でのイベントのときには、置いていないときと置いているときがございます

ので、今後は必ずブースを設置するように考えていきたいと思ひます。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

課長、市外のときは、それは当たり前だと思ひます。市内でおこなうときも、市外からお客さんが来るんですから、地元の人も多いんですけど、絶対に来ないというわけではないです。

そして大富神社、これで見ますと、今年、かなり人数が多かったんですよ。こういうところも大富神社とよく協議して、やはり置く、そういうアイデアというか、知恵を出し合ってPRしたらどうかと思ひますが、その辺を。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづく課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

いま議員がおっしゃいました、ちょっと大富神社は、すいません、盲点でございました。今後は、宮司さんと協議をして、置いてもらえるかどうかも含めて、お話ししたいと思います。

また、市内の各店舗や要所には、昨年度からまちの駅事業でパンフレット等を置いていただいておりますので、さらに推進して、パンフレットを設置している所が増えていくように努力していきたいと思ひしております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

以前から申し上げていたとおり、いま豊前市で東九州自動車道の一部が開通していないために、豊前市でおける客数が多いんですから、こういうときに知恵を絞って、何のイベントでも豊前市をPRするために、まず豊前市の顔であるパンフレットを置くというような取り組みを、ぜひやってもらいたいと思ひますが、もう一回、課長、一言。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

いまのお言葉をしっかり受け止めて、さらに充実させていきたいと思ひます。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。その名所の中で、トイレ等の整備の要望とかは

挙がっていないですか。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

現在ですね、改修がまだで挙がってきている所は、先ほど言いました求菩提の駐車場のトイレでございます。これにつきましては、県が見積もりに来まして、いま細部にわたって、ちょっと協議をしているところでございます。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

求菩提の駐車場は、もうやるようにしているんでしょ。

(まちづくり課長、頷く)

私が聞いたところによりますと、松江の河津桜ですね。現在、増えていって、年間来客数が2万人を超えて、2万3000人となっています。ここに、トイレがなくて、周りに借りに行くというような状況が続いています。これはね、やっぱり2万人を超えているんですから、トイレとか、そういう観光整備は、ぜひ行政がやることだと思いますけれども、そういうお考えは。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

お答えいたします。河津桜につきましては、民有地ということもありまして、うちのほうでは、毎年、関係する団体、それから所有者である農園の方と協議をして、毎年おこなっているところです。

いままで、まちづくり課として対応したのは、看板等の設置、それから渋滞を整理するために警備員の配置というのをおこなってきました。いま議員が言われましたトイレにつきましては、農園さんにお世話になったりというような状況でございます。トイレについては、ちょっと検討していなかったもので、検討させていただきたいと思います。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

2万人を超えて、2万3000人来ているんですから、トイレが農園さん、いま言われよったですけど、私が聞いたところでは、トイレを借りに望海荘に一番来るんですよ。施設ですから綺麗ですからね。そしてそれプラス、ごみも捨てて帰ると言うんですよ。だからこういった問題は絶対に観光地は、トイレ、ごみ。

課長、まちづくり課が観光をしょったら一番に思いつくのがそこだと思うんですよ、そのくらい人数が集まったら。そういったのを早くやっぱり行政としてよく話し合って、設けるということを望みたいんですけど、一言。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

河津桜の、望海荘さんに大変な御迷惑をお掛けしている話は、十分伺っております。内部でよく協議して、そういった迷惑が少しでも掛からないように努力をしたいと思います。よろしくをお願いします。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひですね、今度観光物産課が新たに開設されるようではありますが、観光地の整備をし、物産等に力を入れて、雇用の拡大とかにつなげるような考えを持ってもらいたいと思います。また副市長、一言。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

観光行政は、市長が言われているように、極めて豊前市にとって重要な施策でございます。他の市町村に負けないようないろんな施策、そしてまた観光客の皆さんに御迷惑を掛けないような取り組みというのは、非常に大事ではないかなというふうに考えております。

新しい課をつくって、より前進させるような取り組みをしたいと考えております。よろしくをお願いします。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひですね、観光物産課に期待をします。そしてそれだけの人数が集まっているんですから、もうお土産はもちろん、物産品もかなり売れるんじゃないかと思います。

市長、御意見を。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

豊前市にとりましても、眠った資源、宝をどのように活かしていくのか、観光と絡めてこれを打ち出していくというのがひとつの大きな方向だろうと思います。

負の部分も正の部分もプラスの部分もマイナスの部分も、観光にどのようにつなげていけば、正の部分の掛け算、足し算になっていくのか。その辺の知恵を使っていきたいと思っています。

ただ眠っている部分、まだ気づかない部分もたくさんございますので、ぜひお知恵を貸していただければと思います。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

観光物産課という新たな課ができるのですから、観光物産課という名前だけじゃなくて、豊前市の観光地がいま以上に潤うような充実した課になることを御期待申し上げまして、次の質問に移ります。

3番目に、ごみ焼却場の残さ等の処分についてであります。現在、豊前市のごみ焼却場の残さ等の最終処分は、どのようにされていますか、お尋ねいたします。

**○副議長 山崎廣美君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

豊前市のごみ焼却した後の焼却灰なんですけれども、上毛町の最終処分場のほうに埋設させていただいております。

この事業が昭和60年から開始されまして、埋め立てを始めて30年経っております。現在のところ、もう残りの許容範囲というか、埋め立て量が30%を切るのではないかと状況になっております。最終的に処分場を廃止するには、50センチくらいの覆土も必要になってきますので、あと5年間くらいで満杯になるのではないかと、ということで報告を受けているところでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

あと5年で完了ということでもありますね。その後の豊前市のごみ焼却場の残さ等の処分は、一部組合議会等でどのようにされていますか。

**○副議長 山崎廣美君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

組合の議会のほうでも、この問題が取りざたされております。今後、埋め立て、上毛町さんのほうとしては、早めに終了したいという意向もあるようなんですけれども、ごみを減らして関係の市町村としては長持ちさせたいという話もございます。



もし一杯になる、5年くらいで一杯になるということでございますので、その後どうするのかということで、関係市町村と協議をしていただいて、組合の事務のほうで、北九州市のほうで処分するのはどれくらいとかですね、そういう資料を集めてくれるようにということで指示があっているところでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

まだ最終的には、どうするという決断までは出ていないんですかね。

(生活環境課長、頷く)

市長、これも後もう5年しかないんですよ。早めにいまの段階で、後の処理をどうするかを決めたほうがいいと思うんですけど、一言。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

御指摘のごみ焼却施設でございます。いま豊前市と吉富町、上毛町、1市2町で運営する清掃施設組合で、年間約1万3000トンだったと思いますが、程のごみを焼却して、その焼却灰、焼却する部分が、大体1万1000トンくらいですから、灰が11から12%で、年間1200トンくらいの灰が出ている。それを上毛町さんをお願いして、埋め立てをするという処分の仕方最終処分をしております。ただこれもおっしゃるとおり、5年持たないという段階にきております。

我々は、今までごみ回収、まさに一般廃棄物、家庭から出るごみを中心に、まとめて焼却する、ある意味では非常に楽なやり方をやってまいりました。しかし、御承知のように、昨年12月11日に、パリ協定として結ばれました地球温暖化の気候変動枠組み、この条約国地域だけで196ございますが、ここが新興国も発展途上国も、そして先進国も併せて、足並みをそろえてやっていかなければという、もう目の前に、そういうCO2を減らす義務が、もう与えられたようなものでございます。

そんな中で、我々はどのようにこれを減らしていくのか。まず、ごみを減らすことによって灰を減らしていくという、そういう基本に戻らなければならないのではないか。減らすためには分別をする。細かい分別をする努力をするということも、やはり市民協働のまちづくりの中で取り組んでいかなければならないと思います。

そういう意味では、我々に残された5年間、5年しかないわけでありまして。行政の仕事で5年というのは、あっという間でございます。今すぐにでも立ち上がって、これに手を打たなければ大変なことになる。

いま北九州市に灰の処分をお願いすれば、民間の所にすれば、すごいお金が掛かると聞

いております。それを甘んじて市民に払ってくださいと求めるのか、我々で立ち上がって、それを少なくし、そして後世にこういう道で良かったと言われるような方向をつくっていくのか、いまが正念場だと思っております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひですね、市民の皆さんに負担がないように、早急に今後の処分の方向性を出していただき、より充実した方向になることを期待いたしまして、次の質問と、また関連することもあると思いますが、次の質問に移らせていただきます。

最後に、安全対策についてであります。湾岸道路と防波堤の件について、お聞きしたいと思えます。

豊前市の海岸沿いは、海拔が約1メートルの箇所もあり、津波、高潮の被害が心配されます。その対策のために、防波堤の計画など、お考えはないですか。

**○副議長 山崎廣美君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

防波堤の計画の件につきましてですが、現在ですね、京築県土整備事務所におきまして、角田海岸、松江海岸、八屋海岸、宇島海岸、三毛門・杵川海岸の5海岸、延長にして8463メートルを維持管理しております。

建設年度につきましては、古いものは昭和38年から平成11年度にかけて建設されておまして、約52年経過しております。

特に三毛門・杵川海岸、これは延長が2196メートルございますが、老朽化が進んでおまして、京築県土整備事務所において、本年度、老朽化対策として地形測量及び施設の調査をおこなっております。現在、対策工法を検討しているとのことでございます。

ただ、その新規に計画を、改良というか、新たに建設をし直すというような計画は持っていないということでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

新規にはないということでありませけれども、その改修のときに、嵩上げとか、そういったのはお考えですか。

**○副議長 山崎廣美君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

嵩上げにつきましては、本来、この防波堤、堤防については、高潮対策で造られておりまして、基準が30分の1年に1回、波浪等に対応できる設計、設置をおこなっておりますので、嵩上げ等は考えていないということでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

嵩上げ等は考えていないということですが、いまその設置している防波堤の改修ということですね、新たにじゃなくて。

防波堤がない箇所で、海拔1メートル、2メートルの所の、豊前市でも高潮が来たら浸かる所が何箇所かありますよね。そういったところの対策等は、どうお考えですか。

**○副議長 山崎廣美君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

現在ですね、豊前市のほうで八屋漁港区域と松江漁港区域を管理しております。護岸等によっては、基準以下の部分もございまして。そういったものについては、防災事業等も準備されているわけでありまして、まず、施設の長寿命化調査をおこないまして、老朽化等の状況に応じて、施設の長寿命化のための計画を策定するということが、補助事業等の条件ということになってございます。

早急にそういった長寿命化計画等の調査等について、検討していきたいと考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

課長、その長寿命化計画が必要ということでありまして、あれから、東日本大震災以降、もう5年経とうとしています。どこの自治体も防災に力を入れているわけでありまして。豊前市も一番被害を受ける所を、この5年の間に放っておくわけにはいかないと思うんですよね。

いまから長寿命化計画を作れば、また遅くなるわけですから、もう早くその長寿命化計画を作って、補助金が下りるなら、もう早急に作らないと、いまじゃあ明神の一番低い所ですね、台風が来て満潮と大潮が重なった場合、必ずあそこに水が入るわけですから、そういった処置を、指をくわえて見るわけにはいかないと思うんですよ。そういったのを早めに対処の方法をしなければいけないと思いますけれども、見解をお聞かせください。

**○副議長 山崎廣美君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

水路等の流末から海水が逆流して、雨水の排出を阻害するという部分がございますので、早急にはフラップゲート等の設置検討させていただきたいと思えます。

また長寿命化調査等も早急に対処できるよう、庁内で十分検討させていただきたいと考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひですね、実際に住んでいる方がいるわけですから、台風の時など、非常に不安であると聞いています。その人たちの身になって考えれば、早急な対策が必要だと思えます。

副市長、お考えを。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

まさにその地域の方々の安心・安全な生活を守るためには、早急に対応すべきと考えておりますので、庁内で早急にまとめて、県・国に要望活動等をしていきたいと思えます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひ早急な対策をお願いさせていただきたいと思えます。

ではですね、別の角度からお尋ねいたします。ここに毎日新聞の記事があるんですけども、東部道路、津波から住民を救う、これは仙台ですけども、東日本大震災で被災した仙台市若林区六郷地区で、多くの住民が地区の東西を貫く仙台東部道路に駆け込み、一命をとり止めた。周囲が周辺より高い盛り土構造だったことが幸いした。高速道は指定避難所ではないが、震災時の一時避難拠点として見直されそうだ、という記事があります。

こういった観点から、そういった意味で、湾岸道路の計画があるようですが、どのように取り組み、豊前市として、今後考えていきますか、お答えください。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

議員御指摘の件は、周防灘湾岸道路の件であろうかと思えます。これにつきましては、平成6年に地元自治体関係者によります周防灘臨海線道路建設促進期成会が発足いたしまして、計画図の検討でありますとか、県・国に対する陳情活動等をおこなってまいりました。

ただその後、地元自治体の中で、やはり東九州自動車道の早期供用開始に力を注いできたという経緯がございまして、いま休止状態になっております。

しかし、関係各位の御支援をいただき、東九州自動車道につきましては、本年春に開業予定というふう聞いておりますので、今後は周防灘湾岸線道路の建設促進に向けた取り組みを再開する方向で検討してまいりたいと考えているところでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

課長、いまの説明では、湾岸道路の当初からの計画を待っているように聞こえますけれども、私がいま言った堤防が無理なら、その湾岸道路が、いまこの例を挙げた防波堤の代わりにもなると思うんですよね。

またこの記事を読みますと、目指したのは、約600メートル先の仙台東部道路、目の前にある高台道路は高速道路しかなかった。死に物狂いで走って、道路脇の高さ約1メートルのフェンスをよじ登り、法面を駆け上がって難を逃れた。本線には、既に約50人の住民が避難していた。妻と娘の姿もあった。道路のお陰で命が救われたと実感している。こういう例があるんですね。

さっき、建設課長、農林課長も堤防は嵩上げはできない、そして長寿命化計画を出さなければ無理ということをお聞きしました。じゃあ逆に考えて、湾岸道路を前から計画があるんですから、これを防波堤の代わりにするという知恵ですね、考え方。こういった考え方はないんですか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

御指摘の件につきましては、以前、渡邊議員からも同様の御指摘を受けたことがございます。

今後、建設促進を進めていく中で、当然そうした防災面での役割等も検討しながら、国・県に対して働きかけをしていくべきであろうというふうに考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

湾岸道路に関しては、私の聞いたところによりますと、隣の吉富町が前向きに取り組もうとしていると聞いています。吉富から能徳の工業団地までを、まず建設してみてもどうかと思いますけれども、一言。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

今後ですね、期成会等への働きかけも含めて、検討してまいることになろうかと思えます。よろしくお願ひいたします。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

副市長、いまの件で、一言見解をお聞きします。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

この件につきましては、京築北部九州東部振興会議の中でも、県のほうに、この経済効果の波及の大きさ、そしてまた地域の防災の観点からも、国県に要望していくというようなことが決められております。そういったものを推進するために、一生懸命、私自身頑張っていきたいというふうに思っています。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひ、前向きな方向で早急にお願ひしたいと思います。

そこでですね、先ほどの質問と関連しますが、湾岸道路の推進のため埋め立てをおこない、先ほどの質問で聞きましたが、ごみ焼却場の残さ等を、環境に十分配慮した施策を取り組んでみてはどうかと思えますけれども、御意見を。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

御質問は、埋め立て地を、ということによろしいでしょうか。

(福井議員「はい」の声あり)

豊前市には、先ほどの御質問の中で、残さの捨て場所もない、あるいは湾岸道路建設するときに、橋梁では大変なお金が掛かっていくということで、現在、埋め立てが一部出来ないのかということで、国・県に対して要望活動もおこなっておりますし、協議をおこなっております。そういったことを含めて、非常に残さ処理のためには、その土地が必要だと考えておりますので、よく協議をして前向きに考えたいと思えます。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

先ほど言われました5年で完了するということがありますので、そういった方向に使えるれば、もう御の字かと思えます。ぜひそういった前向きな方向でいってもらいたいと思います。

将来は、いま言った埋め立てですね、埋め立てを増設することによって、漁場の確保や工業団地にも結び付くと思えますが、どう思えますか。いいですか、市長。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

我々は負の部分をもどのようにプラスに変えていくかと、そういう地方の知恵も試されているときだろうと思えます。

いま議題になっております周防灘の湾岸線の道路、これはもう長い間、この地域全体の懸案であります。これをうまく道路としてだけではなく、防災という面でも安全対策という面でも、またさらに負部分を解消してくれる埋め立ても必要なところもございしますので、そういうところに安全なかたちで埋め立てられるような、そういう処理の仕方も技術的にはできております。

そういうものをうまく使い、組み合わせながら、できたらいいなということで、どのようにすればこれが実現できるのか、この豊前市だけではない問題でございします。近隣の、特に広域の京築の市・町、並びに県と力を合わせて前向きに進めるように頑張っていきたいと思えます。以上でございします。

**○副議長 山崎廣美君**

福井議員。

**○5番 福井昌文君**

ぜひ、ごみの問題、工業団地、漁場の確保や防波堤の対策にもなるんで、湾岸道路を早期解決に向けて、前向きに取り組んでももらいたいと思えます。

最後に、雇用の確保や定住人口の増加や税収確保により、光り輝く明るい豊前市の将来が開けるよう、執行部の前向きな努力を期待いたしまして、私の議員2期目の最後の質問を終わります。

**○副議長 山崎廣美君**

福井昌文議員の質問が終わりました。

次に、爪丸裕和議員。

**○11番 爪丸裕和君**

それでは、続きまして同志会二番手、爪丸裕和、豊前市の将来像についてという発言通告のもとで質問をさせていただきます。

御承知のように、わが国の人口は減少の傾向にあり、またさらに首都圏、都市部への人口の流入により、都市、地方という間には、格差がますます広がるような状況にあります。

また本市におきましても、現在、確か2万7000人を割り込んだんでしょうか、というような状況に毎年毎年のように人口が減少する、さらには、高齢化率はしっかりと上がってくるというような状況にあります。

市長に、まずお尋ねいたしますが、豊前市の将来像ということで、発言通告をさせていただいておりますが、やはり10年後、20年後を見据えたときの豊前市の将来像というのは、やはりますます高齢化率がどんどんと上がり、そしてその少子化により人口がどんどん減少するような、そのようなまちづくりを目指そうとされているのか。

そうじゃなしに、市長就任以来掲げられますように、やはりこの高齢化社会におきましては、生涯現役という、しっかりとした健康で生涯現役で生活できるようにしていただくような、高齢者の方々がこのまちで、しっかり生活していただくということと同時に、やはり子育て世代ですね、子育て世代の人口が増加しないことには、しっかりこの高齢化率、人口減少に歯止めをかけることができないと思うんですよね。

この2点について、市長がどのようなまちづくりを目指そうとされているのか、まず市長の御見解を伺いたいと思います。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

豊前市の将来像についてでございます。将来を見たときに、どのような姿を描くのか。1つの方法として、振り返ってみると、過去の我々の地域の歴史を、流れを見て、その延長線上に、どのような姿を描き、それをさらに触れる一番良いところに持っていくためには、どうしたらいいのか。望ましい姿には、どうしたら近づけるんだろうか。そういうふうに考えるべきではないかなと私は思っております。

その具体的な1つの手法の1つとして、高齢化というのは、間違いなく進むわけであり、それを悲観し悩む、それだけではなくて、その人たちが元気に活躍できる、その人たちが人生を人の手を煩わせることなく、お医者さんにかかる時間を少なくして、介護にかかる時間と費用を削って、健康長寿な時間を長く持てることが幸せにつながる。歳を取ることと幸せとが連動していくような施策、これが生涯現役社会の基本にあると認識しておりますし、そう思っております。

そのために、どのような施策をつくっていくのか、していくのか。そういうところがひとつでございます。

確かに子育て世代が、その後が続いてこなければならない。そのためには、子育て世代が、先ほど前の議員さんの質問にもございました。いろんな子育て誘導策や子育て支援策、



そして子育て世代を引き込む支援策もあるかもしれません。それと併せながら、この世代の人たちが増えるための施策。これは就業、つまり働く場所がどこにあるのか、その人たちが働くのを、起業できる支援体制から、いや、自分は雇われたほうがいいのか、サラリーマン、雇われる立場で従業員として働くほうがいいのか、そういう選択もあると思います。もしくは、自給自足でも、最近は増えているようではありますが、やっていこうとする活力のある人たちもいるかもしれません。

そういういろんな人たちにチャンスが与えられる。その人たちにチャンスが与えられるには、どういう施策をすればいいのか。

我々はいまやはり活力としての若い世代を求める、暮らしやすいという意味では、企業誘致を含め、企業誘致のベースとなる場所をつくり、それに結ぶ道路をつくり、そして働きかけて企業に来ていただき、雇用の場をつくる。そしてその人たちが働きやすい環境、そして暮らしやすい環境とはどうあるべきなのか、それをいま少ない予算の中で、財政の中でできるだけのことをやっていかなければならない、というふうに取り組んでいるところでもあります。

将来像として、いま振り返ってみれば、今までの歴史がずっとある意味では続いていくわけでございます。この中で、最善の方向には、どうやったらいいのかという、それはもう議会の皆さんのお知恵を借りながらも、これから取り組んでいきたい。

具体的にいまどういう像だというのは、喋り始めるときりがないかもしれませんので、この辺で答弁を一旦止めさせていただきます。

### ○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

### ○11番 爪丸裕和君

それでは、また後ほど質問させていただきます。

豊前市まち・ひと・しごとですか、この創生会議を立ち上げられて、総合戦略を取りまとめられたわけですが、この点について何点か質問させていただきたいと思いますが、特にこの3つの柱ですね、3つの柱の中、最初にやはりこの観光振興というようなこと、これは総合政策課長が掲げられております。

その観光の振興の中で、海・山・里というようなことをうたわれていますよね。水産振興施設ですか、これは、実際に正式名称は決まったんですか。それは置いておきまして、それが海、そして山は、これはト仙の郷、そして里は道の駅という、この3つの連携をしっかりとることにより、要は入込客ですか、交流人口とも言うが、入り込み客の増につなげていくというようなことを、ここに掲げられておりますが、この3つがしっかり連携を取ることにより、どれだけの入り込み客、要は観光客増につながるのか、その辺をちょっとお聞かせいただきたいのですが。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

具体的にその3つが連携することで、という予測がデータとしてあるわけではございませんけれども、ただ交流人口の獲得をすることで、現在、約110万人の方が豊前市に観光入り込み客としておいでになっているというふうに考えておりますけれども、これを目標年度、平成31年には130万人にまで増やしたいというようなことで、目標を掲げております。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

全く、この漠然としたような答弁であります。その連携を取りながら、その少なくとも観光マップ等を配布しますとかいうようなところで、観光のPRをしながら連携を取るとか、それとか、ひとつこの3つを連携させたひとつの商品を作り上げた、そのような観光の商品を作り上げるような案があるのかと思ったら、全く答弁とすれば漠然としているというふうに、ちょっと私のほうから発言させていただいております。

あと観光で、これはDMOというんですか、観光マネジメントという、これは一元化させるというようなことと思うんですけど、いまそれは特産品の開発ですか、開発と販売、ゆずですか、上川底さんなんかやられているんじゃないかと思うんですけど、あとはここと宿泊施設とあとは飲食と小売り業ですか、というのは、ここを一元化させるようなものを、団体をひとつ立ち上げる。そしてその販売の売上金の一部をその財源に充てるというようなことまで書かれておりますが、そのような飲食店にしても小売りにしても、宿泊施設にしても、そのような了解をいただいた上で、このようなことを書かれているんですか。その辺はいかがですか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

これにつきましては、今回、総合戦略を策定するにあたりまして、まず一昨年に成立しました、まち・ひと・しごと創生法の中で、まず国が総合戦略を公表いたしまして、それに従うようなかたちで、地方でも総合戦略を作るといような流れがございました。

その中で、観光振興の中で、国が示しました指針のひとつに、いま議員がおっしゃいましたDMOという手法が示されております。

これは、内容につきましては、いま議員がおっしゃられましたとおりなんですけども、こういうことを目指して、今後、関係各団体と御相談をしまして、その組織づくり、そう

いうプラットフォームをつくりたいということで、計画に明記をさせていただきました。

特にその中で求められておりますのが、自主財源の確保というところがございますので、そのところ、自主財源の確保については、他にもいろいろな方法があるかと思っておりますので、そういう特産品の売り上げ等も含めた中で、今後御相談していきたいということで、御理解いただければと思います。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

私の質問は、そのような団体の方と、そのような話をされ、ある程度 of 了解をいただいているかと、端的に質問しておりますので、簡潔なる答弁を求めます。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

その件につきましては、今後御相談ということで、現段階で了解をいただいているわけではございません。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

全くそのような了解を得ずに、このような取りまとめをされたということでよろしいですね。よろしいですね、もう答弁は結構です。

それでは、次は、この地域資源を活用した、これは観光ツアーというようなことも掲げられています。平成31年を目標にして、10回というようなことを言われていますが、このようなツアーを企画するような旅行会社等、観光のそのような組織ですね、どのようなところと、これは相談されて進めようとしているのか。その10回と言うが、1回のときの、要は観光客の規模ですね、そのバスが1台分なのか、バスが10台分なのか、その辺も考えられたのか。そしてその観光地と、それとこの観光ツアーをやることによる経済効果です。その点については、どのように試算していますか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

まずツアーの企画についてでございますが、これは当然、法律上の問題がありまして、そういう資格を持った方が所属する組織等が必要になります。

現在、まちづくり課のほうで設立をしております観光協会の、いま地域おこし協力隊の二人の職員の方が従事しておりますけれども、その一人の方が、そういう資格をお持ちだと

ということで、そういう法的な部分をクリアできるのではないかというふうに考えております。

それから具体的なツアーの場所につきましては、地域資源としての森林セラピー基地がありますとか求菩提山、それから求菩提山周辺の重要文化的景観の地域、そして郷土の伝統芸能であります、このたび国指定の見通しが出ました神楽でありますとか、そうしたものを組み合わせながらツアーを構成していきたいというふうに考えて、当然、水産振興施設等を、先ほど御指摘いただきましたト仙、そういうものも入ってくるかと思えます。

具体的に、ならばそれが1回当たりバス1台なのか10台なのかというところにつきましては、今後、検討してまいりますけども、現在、県と京築2市5町で活動しております、京築連帯アメニティ都市圏推進会議というのがございますが、その中で、いま京築めぐりということで、ツアーをいろいろな企画をしております。

そうしたものを参考にしながら、集客可能な規模での検討を今後していくということになろうかと思えます。

したがって、そのツアーを実施することでの経済的な効果等につきましては、まだ十分な試算ができていない状況でございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

経済効果はともかくとして、特にこの観光協会が主になって、いまから取り組んでいこうと、このようなことでよろしいですね。

(総合政策課長、頷く)

分かりました。観光は分かりましたが、次は教育と、これは文化、スポーツというようなことで掲げられています。

特にこの教育の中で、これは求菩提で、これは英語をやるということですか。イングリッシュキャンプですか、これも平成31年に30人程度だけど、これは当然、キャンプでやるんだから、その期間等があるんでしょうけど、その対象をどの辺に絞っていこうとするのか、まずその辺を聞かせていただけますか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

対象といたしましては、小学校5・6年から中学生というようなことを考えております。

それで、場所につきましては、求菩提等と言いますか、一定の空間を利用しながらということになりますので、夏休み等、キャンプ場等を活用すると、そういう場の設定がやりやすいのかなということを考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

いま言ったように、これはキャンプ場でやるんだから、課長、期間について、いま質問したんですよ。対象は分かったんだけど、期間は大体いつくらいの期間でするんですか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

期間につきましても、そこにモデル事業というふうに書いておりますけれども、1週間程度がいいのか、例えば2週間程度がいいのか、その辺、やはり教育効果と言いますか、そうしたものを検証しながら積み上げていきたいというふうに考えておりますけれども、現実的には1週間から2週間程度ということになるろうかと思えます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

わずか1週間か2週間くらいで、こういったことをやったくらいで、英語の力、英会話の力がついてくるというようには、誰もが考えないと思いますが、その辺だけ申し上げておきます。

あとは、これはダンスパフォーマンスですか、これはどういうことで、こういったことを掲げられたのか、その辺をまず聞かせてください。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

これにつきましては、一昨年、ダンスでまちおこしということで、議会をはじめ市内のいろんな事業所の方等に御協力いただきまして、プロモーションビデオを作成いたしました。その中で、表現教育ということを書いておりますけれども、いま教育の中でコミュニケーション能力の向上等に効果があるということで、表現教育という言い方、ここ10年くらいで言われるようになりました。

そういう中々言葉で自己表現できないという部分を、こういうダンス等を活用したパフォーマンスをおこなうことで自己表現をする、そのことによって、自己の形成に役立てていただければというようなことで考えております。

一昨年、ああいうかたちで、ダンスでまちおこし、というようなことも企画をされましたので、そうしたものを生かしていきたいということでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

このようなものを作って、どのような効果が、このようなものと言いは失礼だけど、ダンスをやることにより、どのような効果が表れるのか、ちょっと理解できないということだけ申しておきましょう。

あと文化、これは副読本でしたか、これは。平成31年に配布ということ。併せてもう1つは郷土の時間ということ、同じくこれは平成31年に実施されるということですが、この具体的な中身について、お聞かせください。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

今回の総合戦略を策定する過程で、やはり目的が人口減対策ということがあります。

先ほど議員もおっしゃいましたように、若い世代が増えるような施策が、どう必要なのかというところも含めて、アンケート調査をしております。その中で、豊前市に愛着を持つという質問の中で、すごく愛着を持つと答えた方が約30パーセントでございました。

一方で、NTTが2014年に全国で実施をしましたアンケートの中で、移住等の希望を聞いたときに、やはり地域に愛着を持つ方が・・・

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

質問にお答えください。中身について聞いておりますので。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。簡潔に。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

そういうことで、自分の生まれたふるさとに愛着を持っていただきたいということで、こういう副読本によりまして、地域の文化、それから伝統芸能等、地域の誇るものを勉強していただきたいということで、それを活用したふるさとの時間ということ、今後検討していくということでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

ふるさとの時間についても、併せて質問したと思いますので。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

ふるさとの時間につきましては、そういう副読本を活用して、地域の素晴らしさを小学校・中学校で学んでいただきたいということでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

あまり答弁になっていないけど、要はこの豊前市の歴史なり文化なりを、その副読本にして、その本を基に教育をおこなうと、こういうことですか。

教育長、そういうことですか。

**○副議長 山崎廣美君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

議員のおっしゃるとおり、そういうことでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

分かりました。これはもうとても大事なことだと思います。総合戦略につながるかつながらないかとは抜きにして、やはりこの豊前市の歴史と文化というものを、しっかりこれは教育長、教育していただきたいと思いますので、この点は分かりました。

スポーツ振興ですが、プロ野球選手を毎年招いての野球教室ですか。現在が273人を31年にこれを400人にもっていくとの数値まで書かれておりますが、現在、その希望者がいるにもかかわらず、これがいま273人で、そこで抑えているのか、実際に希望される児童なのか、生徒までこれは対象になっているんですか。小・中学校が対象になるのか分からないが、実際にその辺をまずちょっと聞かせてください。希望者が多いんだけど、ここでカットしているのか、その点は。

**○副議長 山崎廣美君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

このことについては、野球教室等を中心に、あるいはサッカー教室、バスケット教室等々ありますけれども、そういった今まで各スポーツ選手が豊前市に来て、直接子どもたちを指導してくれたという中身についてのことです。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

教育長、申し訳ありませんが御答弁になっておりませんので、さっき私の質問、どなたか。どこですか、この窓口は。では、生涯学習課長、しっかり。

**○副議長 山崎廣美君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 向野隆裕君**

昨年度、内容といたしましては、バスケットで108名、野球教室で122名、それからサッカー教室で29名、ゴルフで14名という小・中学生の皆様さんが参加していただいております。大体、毎年その程度くらいで参加がございますので、一応定員として、その程度募集をしております。オーバーしても、その部分については受け付けているという状況でございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

生涯学習課長、副市長が首をひねっていますよ、あなたの答弁に、しっかりしないと。副市長、答弁しますか、どうぞ。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

各スポーツの指導については、指導者の人数が限られているので、多くの方に来てもらっても何もできないということになりますので、一人が指導をするのに、例えば10人、20人という決まりがありますので、誠に申し訳ないですが、そういう人数を絞らせていただいております。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

分かりました。まず実際には希望者がおるという解釈でよろしいですね。将来、伸ばすということ。

(副市長、頷く)

あと、この若者の定住促進、先ほどから他の議員からも出ておりますが、この定住促進ですね、実は、この総合戦略、私はお宅の取りまとめの、この戦略の中は評価していませんが、この戦略の中で唯一というか、いくらかまともという言い方は悪いんだけど、評価できるのが、この定住促進ですね。

特に若者の定住促進の取り組みと、この後出てきますが、1次産業の振興策ですが、この点だけ、ちょっと私は関心があるんですけど、この点について、課長、書かれているの



が、やはり地元企業への就職を、これは推進するとか斡旋するというような中身のもので、中々これはいいなと考えているんですが、実際は、そのような地元企業との連携、まず連絡を取った上でのことなのか。

地元企業、特に中小企業、零細企業は、それだけの毎年、毎年の新規の社員を、要は募集する、採用するだけの、それだけの企業体力があるのか。まずその辺を調べられましたか、その辺はいかがですか。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

お答えいたします。まず集団面接会につきましては、この27年度例会となっておりますが、実は、27年度開こうと、ちょっと当たった経緯があります。

ただですね、地元の学校と協議したときに、うちの対応が遅くて、もう時間が少なかったのが1点。また1つ問題を再認識できたんですけど、一番しなくちゃいけない時期の時点で、就職希望者が意外に少ないということがございました。だから地元の高校1校だけではなくて、豊前市から市外に通っている高校生に対しても、そういう連絡網を作らなくては、集団面接会にならないかなというようなこともありますので、そういうことも含めて、反省を踏まえて、28年度、来年度からやっていきたいと考えております。

また、企業に関しましては、新卒の予定があるかということは、毎年6月に調査をおこないまして、教えていただけたところは把握しております。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

以上じゃない。そこまでいっているんだったら、どれだけの。市長のほうからも指示があったと思いますが、質問にしっかり答えてください。

(執行部、特に発言なし)

もう1回言いましょうか。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

もう一度言います。課長、よろしいですか。地元の中小零細企業の、いいですか、毎年、毎年それだけの採用、新入社員を受け入れる、それだけの企業体力があるのかどうなのか、その辺はしっかり調査されたかという質問なんですよ。

**○副議長 山崎廣美君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

失礼しました。その件に関しましては、製造業と運送業のみであります。毎年、調査をおこないまして、予定があるかどうか、そういうのをお聞きしております。それはアンケート調査ですね。以上です。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

以上じゃないで。だからそのような中で、実際にあるのかないのかを聞いているんですよ。そこですよ。毎年、毎年あるのかどうなのか。

さらには、法人数はどれだけ市内にあるのか、ちょっとそういったデータを出す必要はないけれども、そのようなところをしっかりと、いいですか、総合戦略の中で評価してないんですよ、先ほども言いましたように。その中で、ある程度、私が評価できるのは、いま質問している若者の定住促進なんですよ。

だから先ほど冒頭に言いましたが、子育て世代の人口をどう増やしていくかという中で、重要なんですよ、ここは。雇用の受け皿をしっかりと確保するというのが、そうですね、市長、そこにつながる上だから。だからこの中で、地元企業への就職斡旋という、これは良いことを書いているんですよ。しかしながら、そこがしっかりと裏を取れているかどうか。なんだから、しっかりとそれを今後とっていくべきだと思う。

やっていないなら、やっていないとはっきり言って。いまわずか2つの業種だけ言われましたが、そのところです。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

いま御指摘の、本当に一番基本のところでございます。いくら若者の定住を、促進を目指しても、私は先ほど、そのために企業誘致という、ある意味では、どこでもやる手法を申し上げました。実際にいま地域の中で、地元の中で頑張っている事業所の皆さんに、どのような雇用ニーズがあるのか。これはですね、アンケートと、先ほど製造業と運送業については調査をしていると申し上げました。

しかし私がいま同じことを気づきまして、職員に命じているのは、担当職員は、地場の企業を時間があったら回れと、そして地場の企業のいま考えていることと、実際に雇用なら雇用で、テーマを持って、それぞれ門を叩いて、扉を叩いて、ドアを叩いていくべきだということ、いま命じています。

そこで得た生の情報、即いまほしいとか、いろんな情報があります。もっとここを改善してほしいというのも制度としてあると思います。そういうニーズを、声を聞き取りに行

くという方向に、いま方向をつくっているところでございます、ただ、これはまだ法律で認められていない部分もあるようになっているはずでございますし、また法律でこれを変えようという動きもあります、高校生の特に新卒の場合は、学校を通して、企業は職安を通してお互いに雇用環境を結びなさいと、紹介し合いなさいという、これが前提でございます。これが少し自治体も入れるような改正になるのではないかと思います。

そのような時代に備えて、我々として、地域の中で、最先端で頑張っている企業、事業所の皆さんに、どういう雇用ニーズがあるのか、特に今は人手不足で困っているという声が多いものですから、そういう声も含めて聞きに行くように、命じているところでございます。

いずれこの創生事業の中で、これは5年ありますので、何らかのかたちで、そういうのが反映できるように頑張っていきたいと思っております。以上です。

### ○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

### ○11番 爪丸裕和君

課長、ただいま市長がおっしゃられた点であります。特に行政がまだ入りにくい点があるんであれば、やはり商工会議所等があると思っておりますので、そのような団体に仲介をしていただき、やはりまずは募集を掛けられる企業、仕事内容と、各学校にまず説明に行くというのが重要じゃないかと思うんですよ。

そして必ず若者が出ていくというのは、若者の人口の流出がずっと続いているというのは、やはり地元の企業にどう引き留めていくか。それができれば、子育て世代の人口減少の歯止めにつながるんじゃないかと。重要な役割を占めると思っておりますので、まちづくり課長、その辺をしっかりと、よろしく願いいたします。

そしてあと、これは総合戦略の最後に、1次産業ですね、農林水産課長、1次産業の振興ということで、申すまでもないんでしょうけども、やはり担い手が不足でしょ。特にこの農業、漁業もそうでしょうけど、ちょっと今回の農業について、お宅も出されているようにありますので、質問させていただきますが、やはり高齢化が進むと担い手不足で、そうなれば、将来やはり生産体制というのが衰えていくんじゃないかと。やはりそのための改善打開策とすれば、やはり大規模でしょうね。副議長は本当にやられ御苦労されているんでしょうけれど。

やはりもう合理化、合理化で進めていかないと、特にこのTPPの参加というようなことになってきたときには、しっかりと強い農業というのが求められると思うんですよ。その中で、いま何団体と言いましたかね、ここ。これも計画に入れているんですけど、27年度、現在11件を31年までに16件に持っていこうということですが、これはどういうことで、この5件だけ増やそうというような計画を立てられたのか、まずその点を

お尋ねします。

**○副議長 山崎廣美君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

現在ですね、法人化していただいた営農組合が3組織、残り、個人経営体等が8組織ございます。あと営農組合は、あと5組織ございまして、そういったところについて、推進を図って、順次、法人化を目指していこうと。

また個人の方についても、やはりTPPを控えて、販売力等をもっていく必要があります。そういった部分では、法人化が今後欠かせない要素となっておりますので、そういった個人の方の法人化については、プラスアルファで今後積み上げていきたいという考えでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

ただ、この法人の法人数だけを増やすというような方向じゃなしに、いま現在11の法人があるのであれば、いまこの11の法人を、行政としてどのように支援できるのか、バックアップをどのようにできるのかという点も考えるべきだったんじゃないかと思うんですよ。ただ数だけ大きくするんじゃないに、そこの支援体制で。

この11のこの法人の経営の健全化のための支援ということも、これは重要じゃなかったかと思うんですけど、その辺は、議論されませんでしたか。

**○副議長 山崎廣美君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

相談業務等につきましては、農林水産課の農業振興係が窓口となりまして、農業委員会、団体とか関係機関、金融機関等も含めて相談体制に応じるという体制を取っております。

いま一步、指摘を受けるのが、そういう事業であったり資金である、そういったところの情報提供というのが、非常に弱い部分がございますので、そういった部分を認定農業者の会もございしますが、法人の方についても、グループ化等を図りながら、随時、情報提供ができるような体制整備も併せて検討したいと考えております。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

課長、先ほど申しましたように、しっかりその辺もやっぱり置いておっていただければと思います。数を増やすのもよろしいんでしょうけれど、やはり法人に対して支援できる

という点がありましたら、しっかり行政として支援していただければ、またよろしいんじゃないかと思います。

それとあと1点ですが、これは公社が出ていますね。経営公社の設立ということで、平成31年度までに目標まで掲げられておりますが、この中身について、お尋ねします。

**○副議長 山崎廣美君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

先ほど議員の御指摘がありましたとおり、1次産業の中では高齢化と後継者不足が著しく、このままでは農業全般の衰退と、ますます耕作放棄地が広がっていく危険性がございます。そういった部分に対しては、やはり現在いる担い手の方の経営支援、また新規に参入してくる方を確保していく必要があろうかと考えております。

その受け皿として、地域で総合的な農業振興を後押しするような、そういう組織づくりが必要という認識で、今回提案させていただいております。

具体的には、農業公社ということでございますが、農業生産法人等も併せて検討しながら、農産物の生産及び加工、流通販売まで総合的に担っていける、支援していけるような組織として、今後、関係機関等と十分、また農業者の方等とも十分協議しながら、設立を目指していきたいという案件でございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

当然、生産はやるんだけど、担い手の支援、先ほど言われた新規参入等の支援ということが、この公社の中の目的という解釈でよろしいですね。

(農林水産課長「はい」の声あり)

はい、分かりました。これは総合政策課長ね、この中でソフト面がずっと盛り込まれているんですが、このハード面について、具体的なものが書かれていないんだけど、これは創生会議の中で、そのような議論がなされなかったのか、その点だけお尋ねします。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

創生会議の中でも、そういう御意見が出ましたけれども、先ほど言いましたように、今回、国から示されました方針というのがございまして、その中で、総合戦略については、ソフト事業を中心に、ということで示されておりますので、今回の計画につきましてもソフト事業を中心ということになったところでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

このとりまとめに先だち、アンケート調査をされていますよね、これは。その中で、やはり少子化対策、一番がやはり結婚、当然、出産、子育てというような方を対象に、これはアンケートの調査もされているんだけど、そのような中で、どのような点を希望されますかと。もう栗焼課長、あなた自身も御存じでしょうけれど、やはり子育て支援と教育環境の充実ですよね。さらには雇用という点が盛り込まれているんですが、ところがこの豊前市のまち・ひと・しごとですか、略して創生会議ですか、この創生会議の中で、このアンケート調査により出されたものが、全く、特にこれは書かれていないわけなんですよね。

教育は漠然とした、自分も納得いかないようなことを教育は書かれていますけれど、先ほどに戻りますが、英会話の問題、特に子育て支援においてのとりまとめというのは書かれていないが、この点は、全くその会議の中で出なかったんですか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

子育て支援については、制度的なもの、例えば子ども医療費の助成でありますとか、そうしたものについては、今まで取り組みをずっと進めてきた経過があります。

したがって、今回子育て支援という部分については、教育、そういう部分での子育て支援を盛り込んでいくということで、創生会議の中でも御了解をいただいたところでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

現在おこなっておりますが、学童保育にしてもそうでしょうし、いま保育料ですね、3子以降、幼稚園も同等に扱っております。あとはそれと医療ですね、医療もちょっと福岡県下をちょっと拝見しました。決して劣っているとは思えませんね。実際に中学までの入院の無料化。あとは通院にしても上限は800円というような設定。決して、支援していく上で悪いものじゃないと思うんですが、これで十分じゃないかというような判断でよろしいんですかね。その辺、いかがですか。

**○副議長 山崎廣美君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

事業全般としては、まだまだ改善の余地があるかと思えますけれども、ただ今回の総合戦略につきましては、その実行にあたっての財源措置、これは国の交付金からというこ

とになってございます。

その交付金につきましては、向こう5年の平成31年までの措置ということになっておりますので、制度的なものにあてますと、あと全て自治体の負担ということになりますので、制度的なものについては、今回、控えさせていただいたところでございます。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

ちょっと、それはまた総合政策課長は結構ですが、後ですね、いまから豊前市の将来像ということでありますので、ちょっとこちらに戻ります。

特にまず1点、これは総合戦略のとりまとめの中で、戻りますが、観光事業ですね、私は観光事業自体は否定しません。どんどんやられてくださいですけれども、どの程度の重点的に豊前市として重要課題と位置づけるのか、どうなのか、その辺も含めて、観光については、やはり自治体がそこまでやる必要があるのかということ、これもお叱りを受けるかもしれませんが、そのために大谷課長、これは観光協会を立ち上げて、そちらに移行しようというような考えじゃないかと思うんですよね。やはりその専門分野はそちらに任せることが重要ではないかなというふうに考えています。

そして豊前市の将来像ということでありますが、やはり全てにおいての目的を決め、それから出発していくべきではないかということでもあります。その点も含めていきます。

特に副市長、私はあなたに感心しているのは、議員時代には特に観光事業を訴えられて、特に求菩提の吊り橋を二度ほどやられました、あなたが副市長に就任されたときに、この点を私が質問したときには、これは棚上げされましたね。そのとき、私も評価いたしました。

そしてまたきょうですね、午前中、黒江議員の質問の中で、天地山のこれは改修ですか、いまはリニューアルと言うんですか、それについても、しっかりその点については、やはり経済効果という、あなたは御立派なことを言われましたが、やはり執行機関のナンバー2になれば、その通りだと思えますよ。

やはり全ての事業において、やはり経済効果をしっかり、まずはそれを出すべきでしょうね。それだけの事業をやることにより、その経済効果が生まれるのか。特に観光は大いにやられてください。しかしながら、観光が目的なのか、観光による経済波及効果を求めるのか、その点はいかがなものですか。その辺をまず決めた上で、観光事業に取り組んでいかないと、どんどんどんどんこれは、投資はするが、そのための投資効果です、あなたの言われた、投資効果もなしに、無駄な金を投入するというのはいかがかと思えますので、まずその点について、あなたの副市長のお考えをお聞かせください。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

観光の振興をおこなうことによって、地域のいろんな物産、例えば米であり、いろんな作物、苺とかそれから魚とか、いろんなものが土産として売れるんじゃないか。あるいは食事で食べていただく。そのことによって、その関係者が多少なりとも潤っていく、そのことによって生活が少しでもできるようになる、あるいは年寄りの方も、そのことで頑張ってみようかという気持ちになっていくというのが非常に大事ではないか。

特に民泊言いますか、空き家を利用してのいろんな取り組みを、いまおこなおうとしておりますけども、そのことによって豊前市に新たな魅力ができることによって、いろんな方に来ていただく、その合間を見て求菩提山を見ていただいたり、あるいは天地山を見ていただいたり、そういったものを見ていただくことによって豊前市の魅力を新たにすることができると。

それによって、先ほど言いましたけれども、皆さんが、もうちょっと頑張ってみようかと。それによって経済効果が大きく生まれてくるんじゃないか。道の駅に人が寄る、水産振興施設に人が寄る、そういったことで経済的な効果が大きいというふうに考えておりますので、その点を重点的に考えて観光振興をやっていきたいと思っております。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

ハード事業は、もうちょっと棚上げするという事で、ソフト面で先ほどのツアーの件もありましたが、そのような商品を点と線と面を結びあげた商品を作り上げながら、経済効果に結び付けようと、このようなことでよろしいですね。よろしいですかね。

(副市長、挙手あり)

どうぞ、じゃあもう一度。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

観光には多少の投資が要ります。というのは、トイレの改修であったり、汚い所には行きたくないとかあるんで、あるいは民間の方に、ちょっと投資をしてみようかということもあると思いますが、基本的には、そういったもので、プラスになる部分ですね、お金を投資するばかりじゃなくて、そういった今までつぎ込んできたものを活用して、利用していただくということが基本になると思います。

**○副議長 山崎廣美君**



爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

先ほど福井議員の質問に対しまして、まちづくり課長、5年前からこの観光施設においての入り込み客は横ばいというような御答弁をされました。

実はこれはもうお分かりと思いますが、10年前から比べてみましたら、花形でありませ、先ほども出ました都市公園100選と言われる、天地山なんていうのも実際にその数値が4割くらいに落ち込んでいるわけですよ。さらにはト仙にしても、天狗の湯にしてもそうですね。さらにまた道の駅、今後東九州自動車道の開通というのがまだ懸念される。そのような不安要素というものを十分に把握しながら、副市長、もうあなたならお分かりでしょうが、その点を十分しっかりと把握しながら、観光事業を進めていただければというように思います。

やはり豊前市の将来像、また市長、戻りますが、やはり人口減少に歯止めをかけ、そうですね、子育て世代です。子育て世代の人口増につなげていく上での柱を、まず私とすれば、この目的をここに置くべきじゃないかと思えます。

その上で、やはり子育て支援、教育環境の充実という点におきましても、創生会議におきましては、この子育て支援は十分であろうというようなことでありますが、実際には、ここ数年見てみて、出生者数というのが200人を割り込んでいるんじゃないですか、というようなことでありますので、やはりまだまだ子育て支援が充実しているというふうに、あの数字を見る限り、私はそのような解釈とは思いませんので、これはしっかり子育て支援、そして教育環境の充実という点は、これは副市長、しっかりその点を、また所属長会議なり、しっかりこれは議論していただきたいと思えます。

そして雇用ですね。雇用の場ということになります。今後の雇用、若者の定住促進ということで、先ほどは地元企業の職業斡旋ということを言われましたが、もう1点の柱は、やはり新規の工業団地の建設ですね。そして企業誘致に取り組むということも、やはり重要課題じゃないかと思うんですよ。

この点については、今後どのように考えられているのか、これは市長のお考えを聞かせていただきたいと思うんですが。

**○副議長 山崎廣美君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

豊前市の将来像、やはり高きを望むべきだと。そのためには、どう手を打つかと、おっしゃるところでございます。

やはり先ほどの観光もそうですが、民間の活力を引っ張り出すというのが投資対効果という面では非常に大きな力を発揮するんじゃないかと思えます。民間の活力だとか地域の

持っている資源を、どのように輝かせていくのか、それを味わい、見に来てくれる方々が  
増え、そこにお金が落ち、雇用の場ができる。これもひとつの雇用かもしれません。これ  
をもっと分かりやすいかたちで企業誘致という、もっと大きな、豊前は良い所だと、暮ら  
しやすく子育てしやすく、あそこで働けたら最高だ、というような所にならなければな  
らない。そういうイメージ戦略。あそこに行こうかな、というイメージ戦略も観光事業の  
中に含まれてくると思います。

そういう意味での豊前の姿、あるべき姿を見せながら、そして豊前の魅力を見せながら、  
あそこに企業立地をしようという受け皿として工業団地を造るとするのは、当然のことで  
ございます。

いま私たちが描く自動車産業だけではない、北九州空港には、三菱MR Jの格納庫が  
出来ている。もう近く完成するということでございます。つまり愛知県の小牧空港にしか  
ない三菱重工の工場の第2の工場があそこに来る。そういう長期的な戦略を見る。さら  
に我々の持っている、この地域の持っている自然の資源を、恵まれた自然資源をどのよ  
うに商品化していくのか、これは物産にもなるとは思います、そういうところを、どのよ  
うなかたちで企業に結びつけ、もちろん地元の方々が倍の工場を造ろう、リニューアル  
をまさにしよう、そういう誘いと言いますか、そういうことが可能な豊前にならなけれ  
ばならない。

あんな豊前にだったら行ってみたいという企業に、受け皿としての工業団地を造る、ま  
た隣接する道路を造る、上下水道を整備する、そういうところのハード事業、これは必要  
なものである。投資対効果として見込めるんだったら、果敢に挑んでいくべきじゃないか、  
そういうふうには思っています。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

企業誘致を先に出すんじゃないしに、まず受け皿の体制。企業にしても人にしても、誘致  
ができる、人が寄りやすい、人口が流入できるような、まず環境整備をすることが重要だ  
と、このような解釈で、市長、よろしいですか。(市長、挙手あり)

いえいえ、それは立派な考えです。であれば、やはり先ほど言いましたように、目的は  
もう決まっているんですから、そのための整備というものをいつまでにやって、いつから  
実行しようとするのか、まずそれを取りまとめるべきじゃないかと思えます。

これは副市長、お尋ねしますが、先ほどに戻りますが、総合戦略なんていうのは、全く  
これは国からの指導で来ているんでしょうけれども、私が嫌いなのは、評論家と絵に描い  
た餅というくらい、全くこれは中身を充実したものじゃありませんので、私どももこの3  
月議会で終わりですよ、いよいよ選挙戦を迎えますが、また私がこの議場に帰って来るこ

とがありましたときには、副市長、あなたが責任を持って、しっかりとした設計図ですよ、デザインというものを描くべきだというふうに考えております。

最近、この辺を市長は言いませんけれども、やはり私が尊敬する政治家の一人に北川正恭先生がいますけれども、あの方がこれはマニフェストということを掲げられたわけですよ。やはり後藤市長も、その辺をしっかりとした設計図ですね、マニフェストというのは。しっかりとした設計図というものを描くべきではないかと思います。

そして我々議会としても、よく二元代表制と言われて、やはり執行機関に対しての議決機関で、ただ単に議決機関であるならば、私は議会なんていうのは必要ないというような論者なんです。やはり住民の負託を受けた者として、しっかりとした住民目線に立った上で、しっかりとした我々も政策というものを提案していくべきではないかというふうに考えておりますので、その点をしっかり受け止めていただき、市長にはもう先ほどいただきましたので、今度は、副市長に一言いただいて終わります。しっかりお願いしますよ。

**○副議長 山崎廣美君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

先ほど市長がお答えしたお考えを尊重し、そしてまた、内部をしっかりまとめて会議等で諮って、議員の要望に応えるべく頑張ります。

**○11番 爪丸裕和君**

しっかりお願いしますよ。

**○副市長 榎本義憲君**

はい。

**○11番 爪丸裕和君**

では、議長、終わります。

**○副議長 山崎廣美君**

爪丸裕和議員の質問が終わりました。

ここで議事運営上、暫時休憩いたします。

休憩 16時37分

再開 16時50分

**○議長 磯永優二君**

休憩前に引き続き、会議を開きますが、本日の会議時間は、議事日程の都合により、あらかじめ延長いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

御異議なしと認めます。よって、時間を延長することにいたしました。

それでは、同志会の質問を続けます。渡邊 一議員。

#### ○14番 渡邊 一君

同志会最後の渡邊でございます。最後と言えば、議員生活、きょうは最後の質問になると思います。長いこと皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。まず厚く御礼を申し上げたいと思います。

きょうは市長さんと四つに相撲をとりたいと思います。あなたならできるんですよね。

まず、将来像のことですけども、いつも私が言います。湾岸道路です。いろいろ先ほどの質問にもありましたけども、防災上でも、それからいろいろな点から、これはやっぱり非常に国にとっても有益な計画だと思えます。その辺は、市長さん、あなたが一番理解しているはずで、あなたは主宰者だったと思えます。

これはいまあなたのときが一番近道だと思うのは、まず福岡では麻生太郎副総理、この筆頭秘書というか事務所におる秘書がおりますけれども、それは市長さんに、ちょっと伺いますけれど、何て言いましたかね。麻生さんの秘書は。

#### ○議長 磯永優二君

野田さんです。

#### ○14番 渡邊 一君

そうです。麻生さんの秘書ですね、これもあなたはよく知っているようですよ、野田君も。私も古い秘書時代から友達ですけどね。

それから有明海大牟田湾岸道路をずうっと造って、あっちこっちにランプも造りました、古賀誠さんが現役ではないけれど、まだ非常に力のある一人として福岡県におります。

この二人をうまく使って、この地域の実情をいかに中央の役人に理解させるかということなんです。地元の熱意がどうかということになります。

期成会をつくりましたよね。その期成会をつくったときも、市長が中心じゃなかったんですかね。その辺をちょっと伺います。期成会のメンバーと、それから期成会の発足のいきさつを、分かれば教えてください。

#### ○議長 磯永優二君

市長、答弁。

#### ○市長 後藤元秀君

本当に渡邊先生におかれましては、長い間、議会で御活躍で、本当に頑張ってくださいました。御貢献いただきました。ありがとうございます。これが最後の舞台ということで、緊張しております。

いま御質問いただきました湾岸道路という構想につきましては、まだアイディアのときは、確かに私が言い出しっぺでございました。それをこの京築の首長さんにお話を申し上げました。そのうち何人かの方、特に田原哲夫旧椎田町の町長さんがすぐに反応されて、皆さんをとりまとめて、これはやるべきだと。まだ東九州自動車道が表にあまり出ていな

いころでございました。

当時のあそこに必要だと思ったのは、中津側がもう既に出来上がっている。橋を越えたら何もないではいかなではないか。それから我々京築の湾岸に非常に経済的にエネルギーを持った、また漁港をはじめとした自然に恵まれたところがございます。

このエネルギーを横に結ぶというのが、まだ遅れていた。これを横に結ぶことによって、大きな力に変える、さらに北九州空港という大きな空への便が、あそこに拠点をつくって出来ました。そういうのをトータルしていきますと、これを縦に結ぶ湾岸道路が必要ではないか、ということをお話し申し上げましたところ、期成会をつくって頑張ろうという流れになったと記憶しております。

### ○議長 磯永優二君

渡邊議員。

### ○14番 渡邊 一君

その通りだと思います。あとは、いかにしてこれを実現していくかです。

まず地元の熱意をどう示すかというのは、いま言う期成会が解散したわけではありませんからね、この期成会をもう一遍真剣に立ち上げて、そのリーダーにあなたがなるべきなんですよ。もたもたしよったら、田中君に取られてしまいますよ。一生懸命、なにか行橋の田中君が何かかんか、ひょっとしたらみやこまで、どんどんどんどん手を出しかねんような勢いで頑張っています。ひとつ田中君に負けんごと頑張ってください。

それがね、国のためになるし、この地域のためになります。いかに熱意を示すかということと力なんです。

私は、東京時代に、要するに発電所をここに造るということから、国で5000トンバーツの航路とバースを造ってくれということになりました。そして最初、宇島港と、港湾局の課長と話したら、全然知らんとですよ。やっとならして、そして予算を、大蔵省に行きますと、主計官が、またこれは本当に勉強しています。この宇島港の話をしたら、いつの間にか、これはやっぱり調査に来ていましたよ。断られ、断られ、最後はですね、本当に河野一郎という大きな力と中曽根康弘、河野さんの子分でした。それと蔵内修治、これはひとつの線でしたからね。

今の安倍晋三さんは安倍晋太郎さんの息子です。その当時の蔵内先生の友達です。そういう大きな政治の力と地元の熱意なんです。ここで実現したからタンカーが着くようになって、発電所が出来た。大きなこの湾岸に工業地帯が出来ましたけど、電源があったというのは大きな力になったと思います。

またいまですよ、新しく九州電力さんで九州高圧さんの跡地に新しい発電所を造ろうとしております。おそらく今まだ細かく話を市役所とはしていないのかもしれませんが、なんだかんだと、やはり行政にお願いしなきゃならん問題があるはずですよ。

例えば燃料がいろいろ言っていますよね、石炭でもない、何だったか、パルプを使うとか、それからいろいろ。最後はやっぱ出るはずですよ。最後は何とかせなならん、ごみちゅうか出るはずですよ。それを先ほどからのように最終処分場が駄目だとするならどうするかという問題も、そろそろ我々豊前市としては、ちょっと考えなきゃならん問題だと思います。

もっとスパンの長い、そして広い視野で、ぜひあなたならできるだけの今まで勉強もしてきていらっしゃる。そして湾岸道路の発起人ですから、これはあなた途中でままたこにせんで頑張らっしゃる。いまが一番チャンスです。太郎さんの力ちゃ偉大ですよ。古賀誠さんの力も偉大です。それにパイプがあるわけですから、ぜひ頑張ってください。

そしてその辺の未来像ができましたら、それについても、またちょうど同じように新しい電力が生まれるわけですから、そしていま言っていますように、自動車産業が集積しています。それだけじゃなしに、いまは航空産業までここに入って来ようとしている。最初にあなたが提唱したように、何でこれをつなぐんですか。つなぐべきですよ。

そして津波の一番少ない所ですけども、いま防災上のことも考えたら、うんとそういうことをやりますと、安い予算、安いお金で、いろいろ有効的にこの地域のために、日本列島のために、いまこそこれに真剣に立ち上がるべき。それが豊前市の役目だし、市長、あなたの大きな役目だと思います。あなたのひとつ、お覚悟を聞かせてください。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

豊前市を取り巻く周辺の町・市と、自治体と連携しながら、やはり国にもものを申す、また県に申し入れるというときには、やはり市だけではなく、地域全体で取り組んでいかなければならないと思います。

そういう意味では、関連する自治体とよく協議をして、納得をしていただき、同じ目標を持っていくという作業が前段に必要なだろうと思います。

期成会は幸いにして先輩がつくっていただいております。これをもう一度、眠りを覚ますという作業が、いま目の前に来ているわけであります。議会の皆さんの力を借りながら取り組んでいきたいと思っています。

**○議長 磯永優二君**

渡邊議員。

**○14番 渡邊 一君**

県の話が出ましたが、県には藏内勇夫君がいますしね、勇夫君も無二の親友のようですから。元々県会議員でもあったんですけども、今はやはり県じゃ何ちゅうたって勇夫君は力を持っているようですから、なんぼでも使えるわけですよ。ぜひ頑張ってください。

います。

それで、今度それを目標をずっと持ちながら、それらが今からこの豊前市を、それまでどうしようかということですけど、私は八屋の出身ですから、八屋のことについてお伺いしたいと思います。

まず、先ほど黒江議員さんがお話ししていただきましたけども、八屋には、団地がございます。上町団地とそれから本町団地。上町団地ですけども、上町団地が中途半端のままにあります。あそこの上町団地を整備するために、釜井さんのときに9階建てを2棟建てました。そして、そのときの最初の計画では、確か3棟か4棟建てる計画じゃなかったですかね。あとを残しました。その残して現在に至っているわけですけど、あそこ全体をどういうかたちで活かそうとしているのか。それをちょっとお伺いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

議員御質問の、今後についてでございますが、現在ですね、管理戸数28棟ございまして、そのうち154戸のうち、76戸に141名が入居しているところでございます。入居率としましては、5割を切っておりまして、49.4%ほどとなっております。

また団地に入居している方については、高齢化も進んでおりまして、76世帯中、42世帯が高齢者世帯で、高齢化世帯率、約55.3%ということになっております。

また建物についても、昭和44年から46年に建築されておりまして、耐用年数も過ぎておりますし、老朽化も進行しております。またいま現在、政策空き家として入居募集もおこなっておりません。

今後につきましては、平成26年11月にアンケート調査、これは現状把握と方針策定のためおこなったものでありますが、現在ですね、市営住宅活用検討委員会において、地域の実情などを考慮しながら、民間活力の導入、特色ある地域資源を活かした環境に優しい住宅など、住宅地の形成を図るため、今後の方針を委員会で検討しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

渡邊議員。

**○14番 渡邊 一君**

もう1つ伺います。いま、丸尾の墓地を整備していますね、都市計画道路を通すために。あの都市計画道路の最終が10号線までいく計画だと聞いています。あの辺の計画、それからその目的、いつごろまでにどうなるのか、質問いたします。

**○議長 磯永優二君**

まちづくり課長、答弁。

**○まちづくり課長 大谷隆司君**

上町・沓川池線のことだと思います。上町・沓川池線はですね、いま事業認可を29年度まで受けておまして、29年度完成に向けて、八屋・荒堀線につなぐまで、いま工事をしているところでございます。その先ですね、議員がおっしゃったその先に関しては、まだ財政の状況、また期間等もございますので、いまのところ未定でございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

渡邊議員。

**○14番 渡邊 一君**

それじゃあひとつ、いまの湾岸との関連もありますので、あの辺をどういう地域にするのか、九電さんの社宅の跡地も売れんで苦労しているようですが、どういうふうにあの辺をしていくちゅうのは、真剣に考えて進めていただきたいと思います。あと若い議員さんにつなげたいと思います。

そして、私がいま言う海岸線なんですね。海岸で迷惑施設、それから発電所、また新しい発電所が出てきます。地元の同意がとっても大切だと思います。し尿処理場をいまいろいろ新しい方式を、合理的で水も使えるし、これならよかろうと提案して、一生懸命議論しているところですけども、中々前向きに進みそうにないというか、進みそうですが、やっぱりみやこ町の井上君も、この間みたいに立往生するようなことがあっちゃいけませんから、市長、本当に真剣に考えて進めていただきたい。

と同時に、あなたはまだ体験がないからお分かりにならないかもしれないけれども、迷惑施設を完成させるのは、地元の同意がなければとても出来るものじゃない。火葬場で合河で大戦争がありましたね。それから今の火葬場でも、どのくらいの時間と労力と金銭を費やしたか分かりません。

だから早め早めに、このし尿処理の方法にしても、ごみに対しても、どういう変化が起こるかというようなことを、早め早めに地元と同意を、話し合いをせないけませんけれども、それについて、し尿処理について、地元とお話合いをしたことがございましょうか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

私自身が直接、地元、八屋6区の皆さんになるかと思いますが、今回の上下水道の件については、まだお話ができる段階ではないということで、まだおこなっておりません。

**○議長 磯永優二君**

渡邊議員。

**○14番 渡邊 一君**



そこなんです。市長ね、やっぱりあなたが汗をかかな。こっちはせんでもそこがまとまらんとどうにもなりませんからね。迷惑施設の金額を決めないけません。その辺がやっぱりしっかりしないと前向きに進まない。もう過去の事例が如実に示していますから。

どうぞ、しっかり八屋町の発展も含めて、市長さんの政治力、そして忍耐力、地域の説得力に期待するところ大であります。しっかり頑張ってください。

これで私の質問を終わります。

(拍手あり)

### ○議長 磯永優二君

渡邊 一議員の質問が終わりました。

渡邊 一議員におかれましては、半世紀以上にわたる政治生活、本当にお疲れでございました。心より感謝いたします。なお、4月9日までは、まだ現役でございます。まだまだ現役を引退しても、豊前市の大久保彦左衛門として、どしどし良い意見を、我々後輩に受け継がしていただくべく、発言をお願いいたしたいと思っております。

本当に長い議員生活、お疲れでございました。

皆さん、拍手をどうぞ。

(拍手あり)

以上で、同志会の一般質問を終了いたします。

これより、本日の一般質問に対する関連質問をおこないます。なお関連質問につきましては、答弁を含め10分以内といたします。

それでは、関連質問のある方、挙手をお願いします。

福井議員。

### ○5番 福井昌文君

私は鈴木議員の質問の中で、指定管理等について、各々の案件について、赤字が出たり必要以上の利益がある、との発言がありましたが、各事業についての契約に、本当にばらつきがあるのか、質問いたします。

### ○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

### ○副市長 榎本義憲君

お答えします。民間委託の指定管理については、内部で精査し、方向としてプロポーザル方式で選定をいたしておりました。メンバーにつきましては、内部でなく、外部の方を入れて議論をし、選定をしたところでございます。そしてその中身については、議会の皆さん方に御説明をおこない、承認をもらったところでございます。

議員が言われるように、いい加減に業者を指定したり、今後いい加減なことで、そういったことをすることは絶対にはないと思っております。自分としては、そういった発言をいただい

たことに対して、取り下げをしてほしいという気持ちでいっぱいであります。以上です。

**○議長 磯永優二君**

いいですか。福井議員。

**○5番 福井昌文君**

副市長のおっしゃることは非常によく分かりましたが、あとは鈴木議員の意向になると思うので、私はこれで質問を終わります。

**○議長 磯永優二君**

他にありませんか。

(「なし」の声あり)

それでは、これもちまして関連質問を終わります。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

よって、本日はこれにて散会いたします。皆さん、お疲れでした。

散会 17時14分